

八丈町社会科副読本作成委員会編

わたしたちの八丈島

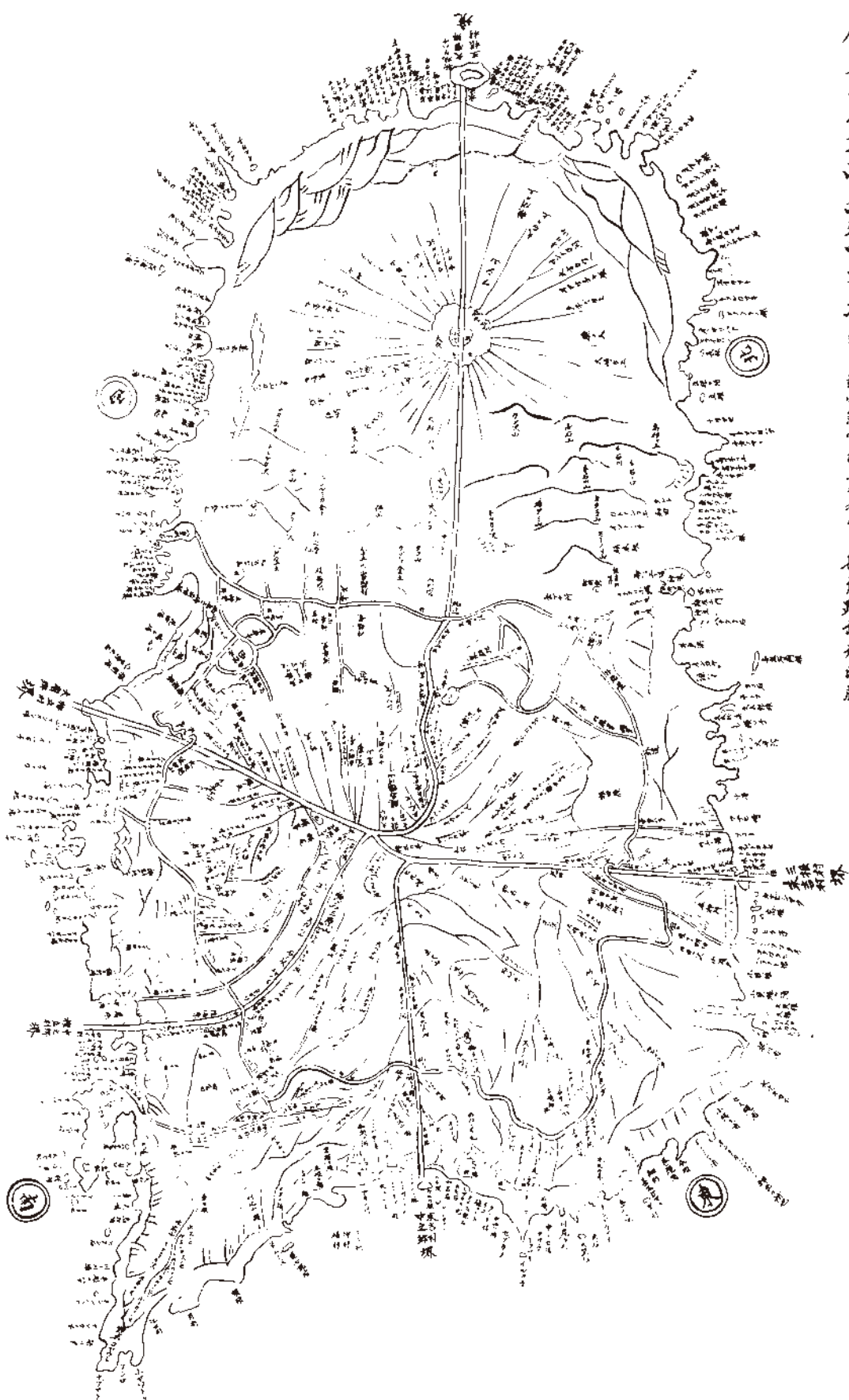


八丈町教育委員会発行

伊豆國八丈嶼 赤西二里半 地圖

弘化三年 江川氏休
 親字 高字 改正之者也

近藤富藏 筆
 長子 路武 氏藏



こんどうとみぞう
 近藤富藏がかきうつした八丈島の地図の写し

①空からみた八丈島（空中写真・平成2年8月25日撮影）





のぼりとうげ
②登龍峠より



④ヘリ・コミュニーター



くうこう
③八丈島空港



ていきせん
⑥定期船さるびあ丸



そどこかいすいよくじょう
⑤底土海水浴場 (三根)



⑧ アロエ園 (大賀郷・永郷)
お お か ご う えい ご う



⑦ 富士牧野と展望台
ふ じ ほ く や てんぼうだい



⑩ 都立植物公園 (大賀郷)



⑨ メットウ井戸 (大賀郷・千鳥)
ちどり



⑪ 横間から見た小島 (大賀郷)



⑬ 玉石垣 (大賀郷・大里)



⑫ 近藤富蔵の墓と碑 (三根・新墓)



⑮ 青ヶ島墓地 (大賀郷・馬路) (噴火で避難した時の物)



⑭ 歴史民俗資料館 (大賀郷)



⑰ 神湊漁港 (三根)



⑯ 底土接岸港 (神湊港) (三根)



ちやうりつびやういん みつね
①⑨町立病院 (三根・中道)



やくば おおかごう
①⑧八丈町役場 (大賀郷)



②①クリーンセンター (大賀郷・西見)



おでいさいせいしより えいごう
②⑩汚泥再生処理センター (大賀郷・永郷)



しやかいふくし きやうぎかい
②③前・社会福祉協議会 (大賀郷)



ほけんふくし
②②保健福祉センター (三根・中道)



ぎやこう
②⑤八重根漁港 (大賀郷)



や え ね せつがんこう
②④八重根接岸港 (大賀郷)



のうりんごうどうちようしや
①27農林合同庁舎 (大賀郷・西見)



しちちう おおかごう
①26八丈支庁 (大賀郷) (完成予想図)



けいざつしよ
①29警察署 (三根)



ととう のうりんすいさんそうごう みつね かみと
①28都島しよ農林水産総合センター (三根・神湊)



かん いざいばんしよ
①31八丈島簡易裁判所 (大賀郷)



ほけんじよ
①30保健所 (三根・中道)



①33老人ホーム (大賀郷)



①32NTT八丈島ビル (三根)



①③④ フリージア畑 (大賀郷・八形山)
ほけ おおかごう ほちがたやま



①③⑥ 富士グランド (三根)
ふじ



①③⑤ コミュニティセンター (三根)



①③⑧ 南原スポーツ公園サッカー場 (大賀郷)



①③⑦ 南原スポーツ公園野球場 (大賀郷)
なんぼら



①④⑩ ちよんこめ作業所 (三根)
ぎょうじよ



①③⑨ 給食センター (大賀郷)
きゅうじょく



おちよがはま かしだて
④① 乙千代ヶ浜 (檜立)



ほっとりやしき
④③ 服部屋敷の入り口 (檜立)



ほ
④② 黄八丈の糸干し



くらわ
④⑤ 倉輪遺跡 (檜立)



ゆぼまいせき
④④ 湯浜遺跡 (檜立)



あいがえぎょこう なかのごう
④7 藍ヶ江漁港 (中之郷)



かしたてむかいざとおんせん ゆ
④6 榎立向里温泉「ふれあいの湯」



ようじょうこうくうかんし
④9 ORSR (洋上航空監視レーダー) (中之郷)



ちねつ ふうりょくほつでんしよ
④8 地熱・風力発電所 (中之郷)



⑤1 えこ・あぐりまーと (内部)



ちねつおんしつ のうざんぶつ ちよくばいじよ
⑤0 中之郷地熱温室・農産物共同直売所
(えこ・あぐりまーと) (外観)



⑤③中之郷温泉 (やすらぎの湯)



⑤②ザ・ブーン (中之郷)

⑤⑤ロベの碑とロベの親木 (高い2本の株) (中之郷)



⑤④裏見ヶ滝温泉 (中之郷)



⑤⑥名古屋の展望 (洞輪沢漁港) (末吉)



⑤⑧ ゆみはらしの湯 (末吉)



⑤⑦ ちかよしけんしょうひ すえよし平川親義顕彰碑 (末吉、元末吉小学校跡)



⑥⑩ すえよしおんせん末吉温泉



⑥⑨ みずみ やまさいしゅうしょぶんじょう水海山最終処分場 (末吉)



⑥② とうだい八丈島燈台 (末吉)



⑥① ながとろ やしき長戸路屋敷 (末吉)

この本に出てくるおもな植物



①⑥⑤ タブノキ



①⑥④ ハチジョウグワ



①⑥③ ヤブツバキ



①⑥⑦ シイノキ



①⑥⑥ オオバヤシャブシ (へいのき)



①69 ゲットウ



①68 アロエ



①71 レザーファン



①70 カポック (ホンコン)



①73 モンステラ



①72 ルスカス



①⑦⑤ ブーゲンビリア



①⑦④ アシタバ



①⑦⑦ サンダーソニア



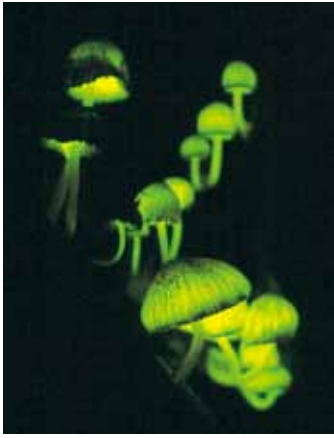
①⑦⑥ ドラセナ



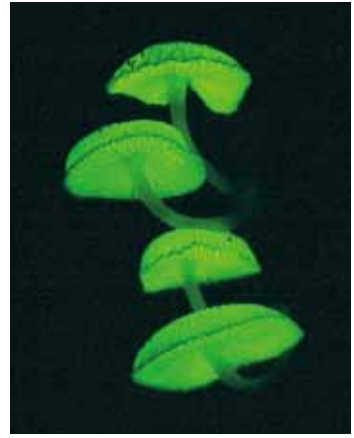
①⑦⑨ パッション



①⑦⑧ ストレチア



⑧⑧ ミイノホシムシタケ



⑧⑨ ヤコウタケ



⑧③ ケンチャヤシ



⑧② ソテツ



⑧⑤ ビローヤシ



⑧④ ヘゴシダ

八丈島の動物

どうぶつ

⑧6 鳥類

(長さは口ばし先から尾の端まで)



ウミネコ
(46cm)



カラスバト (40cm)
(天然記念物)



ヒヨドリ
(27cm)



アカコッコ
(天然記念物) (23cm)



イソヒヨドリ (23cm)



イイジママシクイ
(天然記念物) (11cm)

⑧8 昆虫類



ハチジョウ
カラスアゲハ



ハチジョウ
ノコギリクワガタ
(5.5cm)



ハチジョウ
ルリボシカミキリ

⑧7 貝類

(長さは最長部)



フクトコブシ
(あぶぎ) (8cm)



ギンタカハマ
(めつとう)
(8cm)



ハチジョウ
ダカラ (6cm)

⑧9 魚類



カツオ 80cm



ハマダイ 100cm



キンメダイ
40cm



クサヤモロ
30cm



カマスサワラ 200cm



クロメジナ
40cm



アオダイ
50cm



シイラ 180cm



シマアジ 100cm



アカハタ
30cm

この本を使うみなさんへ

『わたしたちの八丈島』は、八丈島のようすや人びとの仕事とくらし、八丈島のうつりかわり、そして、町の人びとの協力や、町役場・八丈支庁の働きなどについて書いてあります。

みなさんの家や学校のまわりのようすを調べたり、観察したりしてみましよう。また、各地区のようすや八丈島全体のことについて調べ、自分たちの住んでいる地区と、にいてるところやちがうところを比べてみましょう。

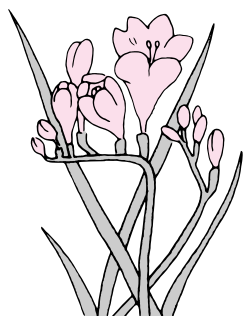
また、八丈島は古い歴史のある島

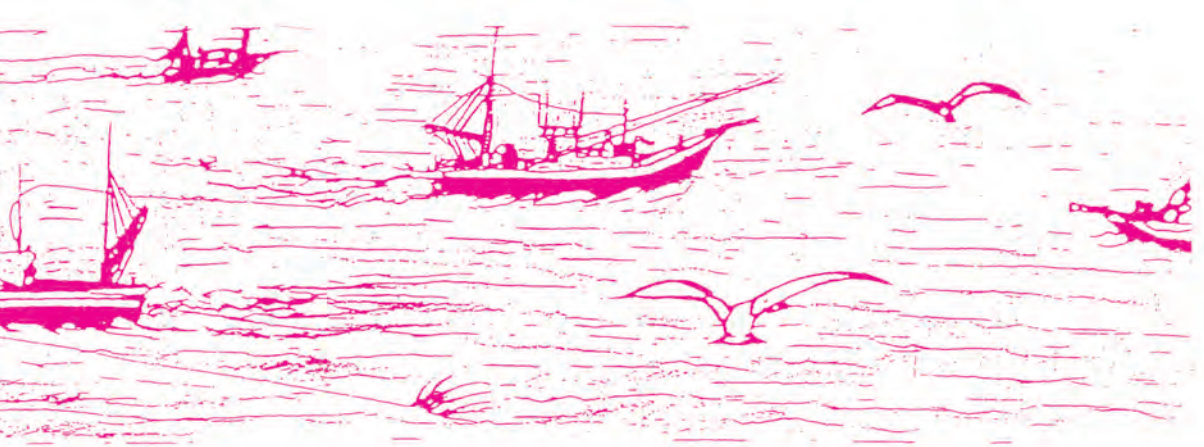
です。島にやってきたいろいろなこと、飢饉やさい害の記録も残されていきます。むかしの八丈島のようすや生活について調べましよう。

八丈島の人びとが、健康で安全にくらすことができるように、さまざまな努力や働きがおこなわれていることについて学習しましよう。

そして、私たちのふるさと「八丈島」を愛し、豊かな自然と文化を大切に守り育てる人になってください。

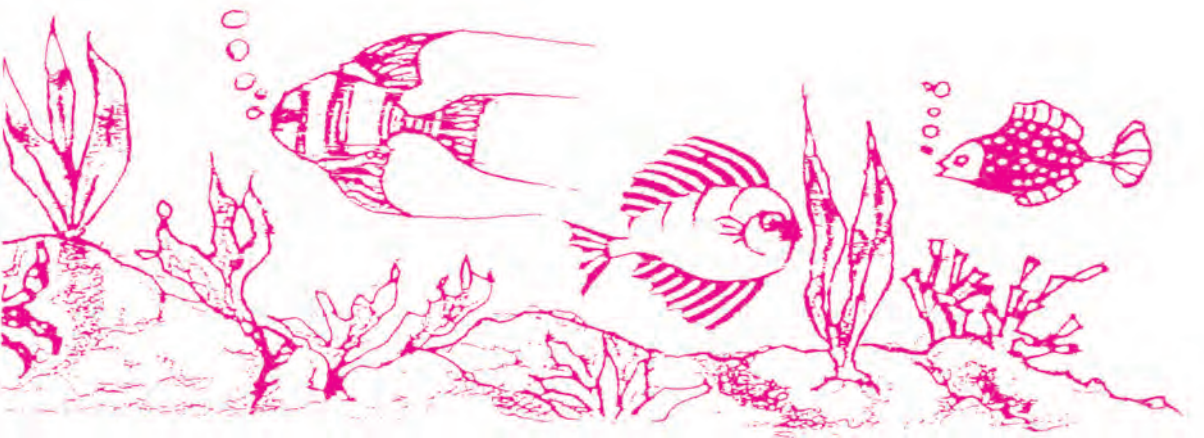
※本文文末の丸囲み数字は
グラビア番号を表しています。

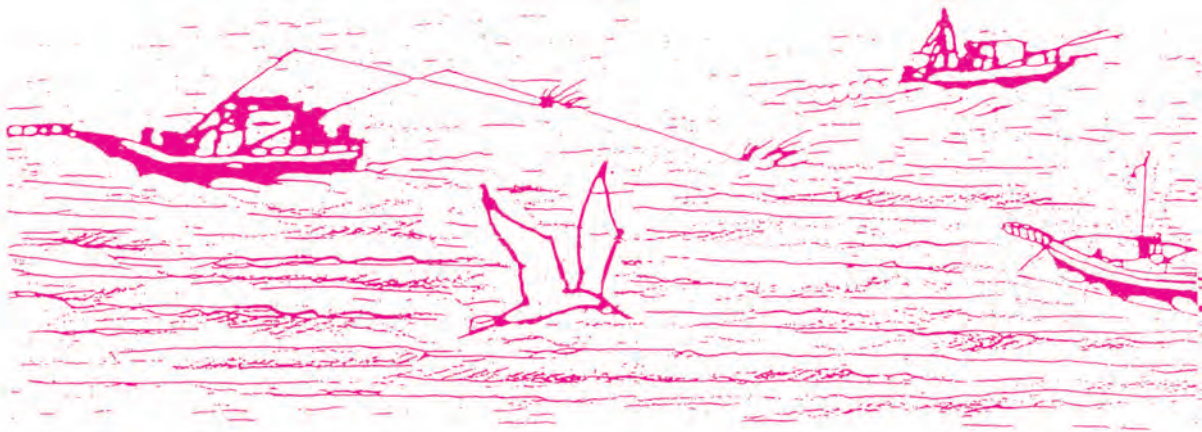




もくじ

	一	学校のまわり(絵地図)	4
	二	八丈島のようす	11
	(一)	島のいちや形	12
	(二)	東山(三原山)と西山(八丈富士)	15
	(三)	自然のめぐみときびしさ	20
	(四)	島の生きもの	24
	三	島の人びとの仕事	26
	(一)	島のはたらく人びと	27
	(二)	島の農業	28
	(三)	島の漁業	33
	(四)	観光の仕事	40
	(五)	店の仕事	43
	(六)	建設の仕事	47
	(七)	古くから島につたわる仕事	48
	四	八丈島のうつりかわり	50
(一)		大むかしの八丈島	52
(二)		室町時代の八丈島	55





(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	(二)	(一)	(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)
これからの島のくらし	くらしをささえる	くらしを守る	くらしとごみ	くらしと水	島と本土との交通	島内の交通	むかしから伝わるもの	八丈町のたん生	戦争後の八丈島	戦争中の八丈島	戦争前までの八丈島	江戸時代の八丈島
.....
101	95	94	92	89	82	76	73	71	70	66	64	57

地図・年表（おりこみ）

六 住みよい八丈島に 88

五 島の人びとのくらしと交通 75



一 学校のまわり

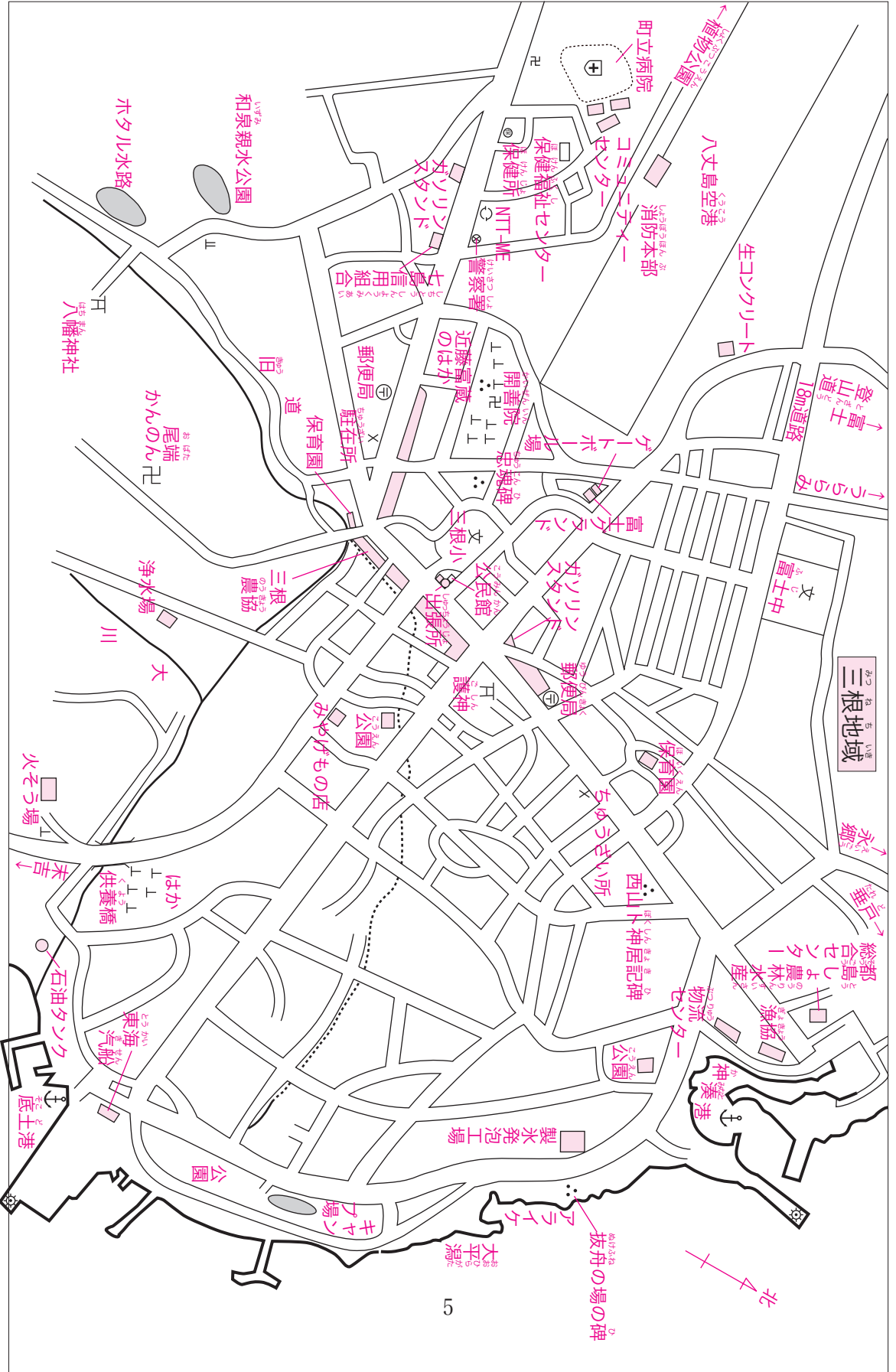


三根みつね小学校から見たようす

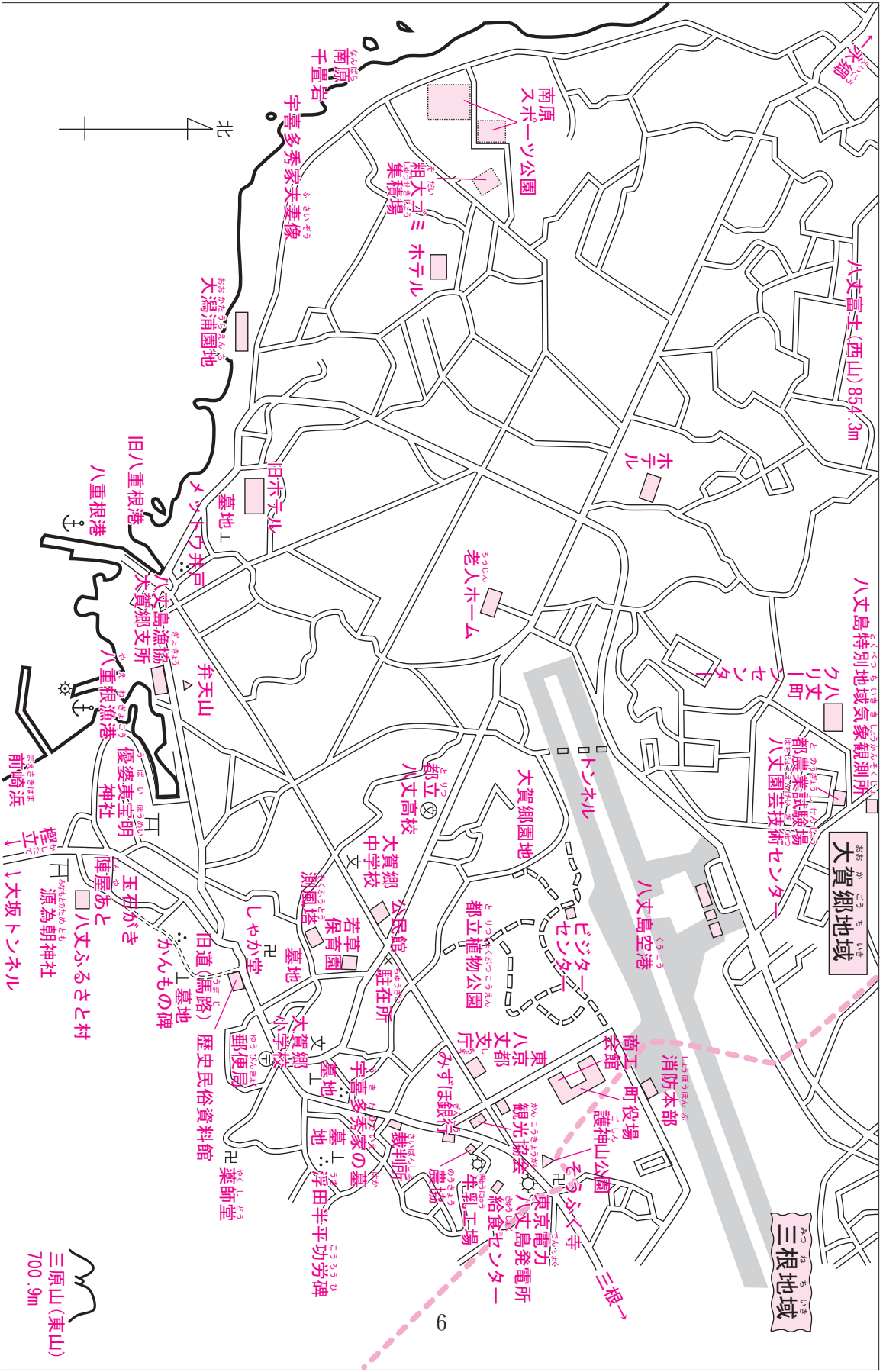
三根みつね小学校から東の方角を見ました。海に向かって道路どうろがまっすぐにのびています。両側りょうがわに家も見えます。その先は底土港そこどこうの方に続つづいていきます。

大賀郷おおかごう小学校の屋上おくじょうから、北の方角を見ました。大きな八丈富士はちじょうふじや神止山どやまが見えます。また、東京電力の煙突えんとつが見えたり、遠くにはクリーンセンターが見えます。

みなさんの学校のまわりにはどんなものがありますか。南や北の方角には何が見えますか。位置いちを調しらべて絵地図えちずを描えがきましょう。自分の家や友だちの家はどこにあるでしょう。



三根地域



八丈富士(西山) 854.3m

八丈島特別地域気象観測所

大賀郷地域

三根地域

南原スポーツ公園

三根ホテル

ホテル

老人ホーム

八丈園芸技術センター

八丈島空港

東京電力
八丈島発電所
観光協会
八丈島発祥センター
生乳工場
農協

八丈高校

大賀郷
中学校

公民館

若草園
保育園

大賀郷
小学校

宇喜多秀家の墓

宇喜多秀家の墓

浮田半平功労碑

大瀧浦園地

宇喜多秀家夫妻像

南原
千量石

相模大橋

三根

三根

三根

三根

三根

三根

三根

三根

三根

三根

三根

三根

三根

旧ホテル

井天山

源為朝神社

歴史民俗資料館

三原山(東山)
700.9m

旧八重根港

八重根港

八丈ふるさと村

八丈ふるさと村

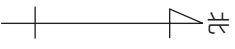
三原山(東山)
700.9m

前崎浜

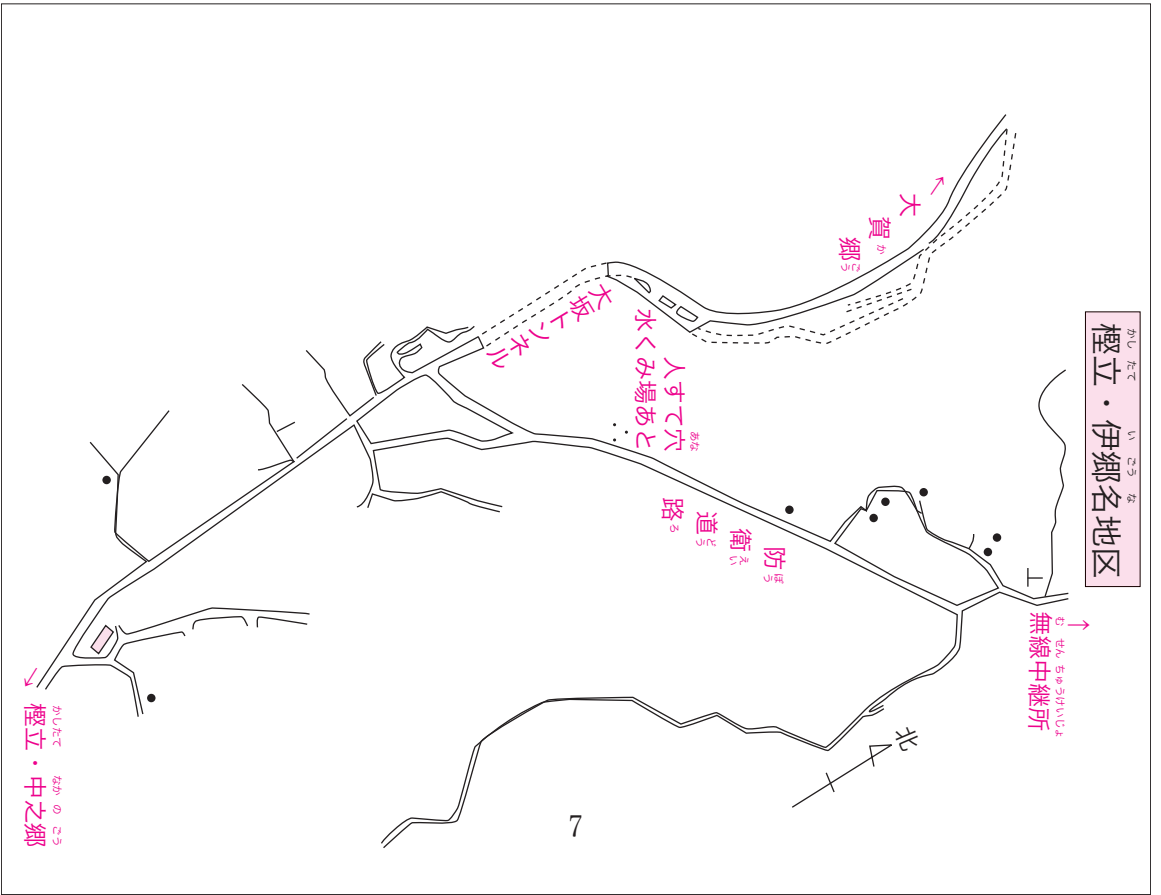
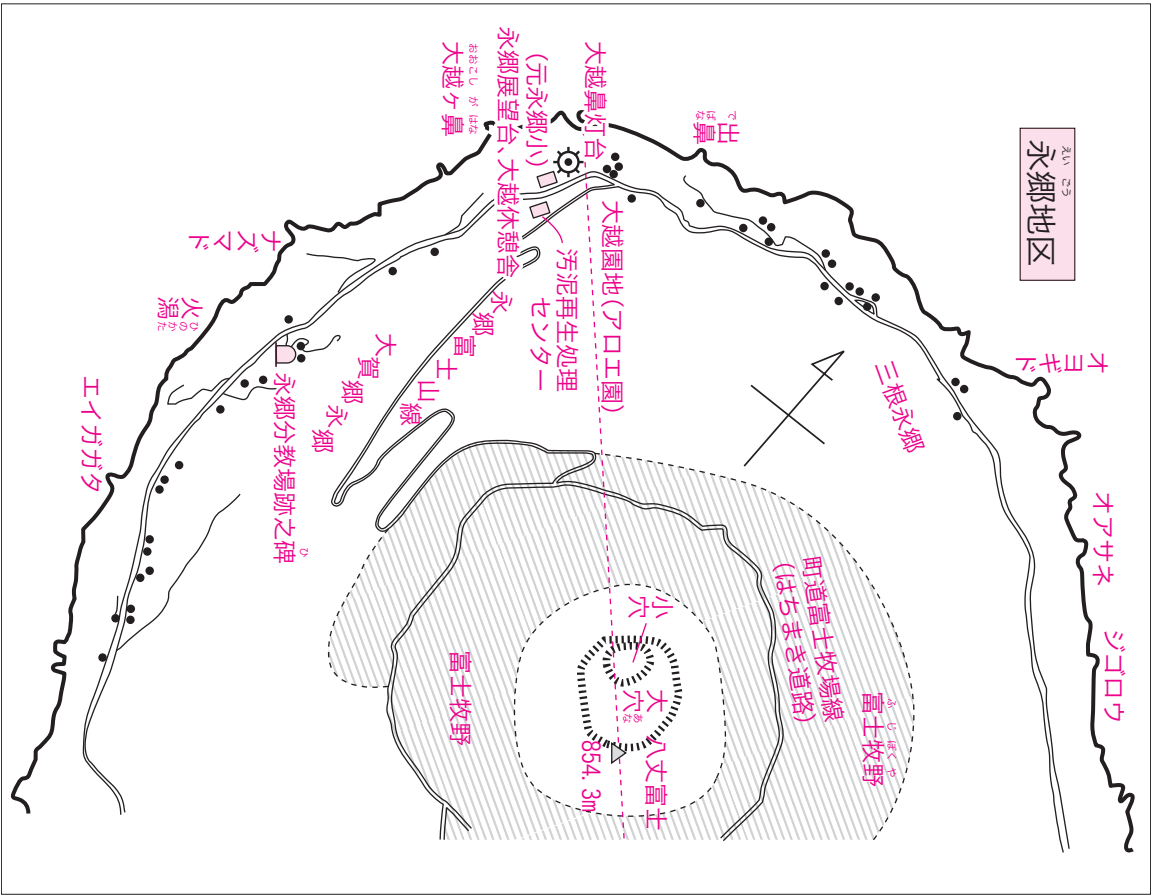
源為朝神社

大坂トンネル

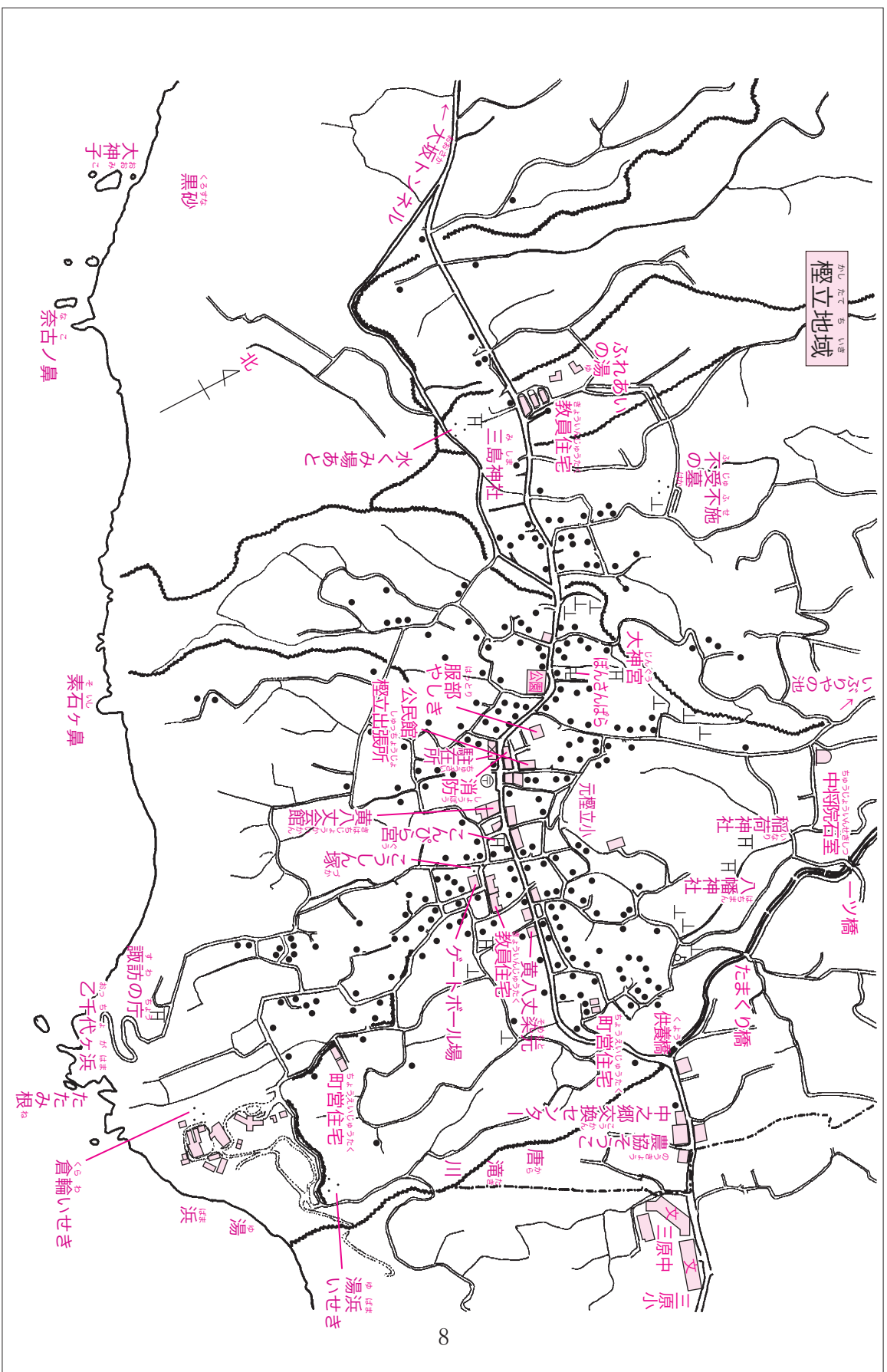
三原山(東山)
700.9m



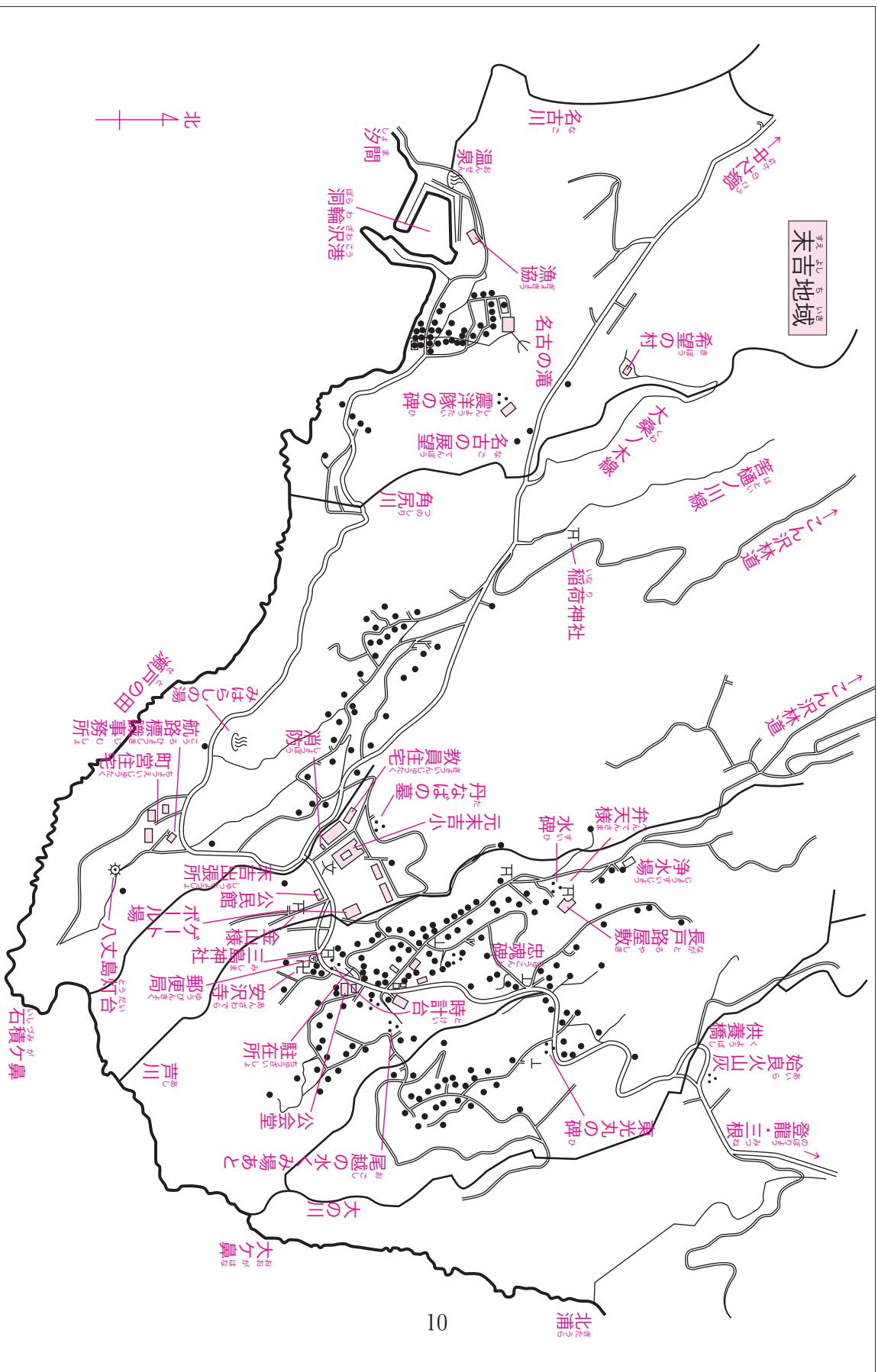
三原山(東山)
700.9m



檜立地域
かしのたてこい



未吉地域



北

北浦

二 八丈島のようす



三原山から見た坂下と八丈富士

上の写真は、三原山（東山）のちよう上から見た坂下のようすです。空港が見えます。また、道路や建物も見えます。

八二〇人ぐらいの人びとが住んでいる、この八丈島のようすを、これから学習していきます。

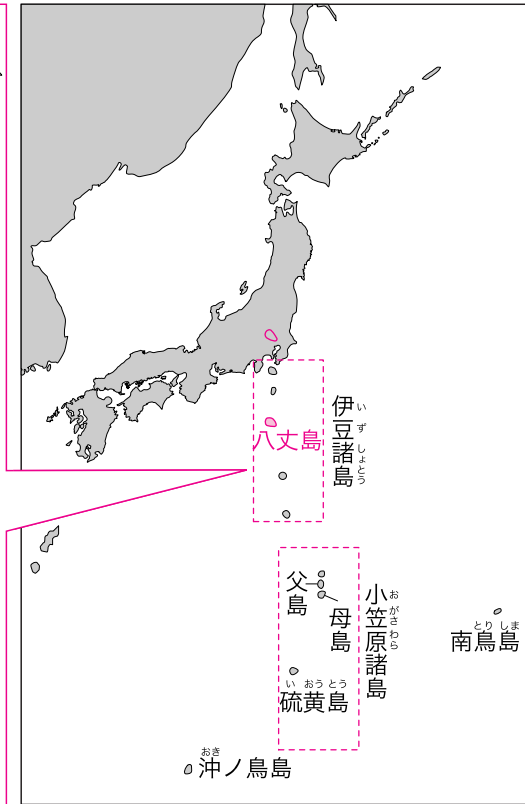
わたしたちの八丈島は、日本のどあたりにあるのでしょうか。

また、どのようにしてできた島なのでしょうかが。

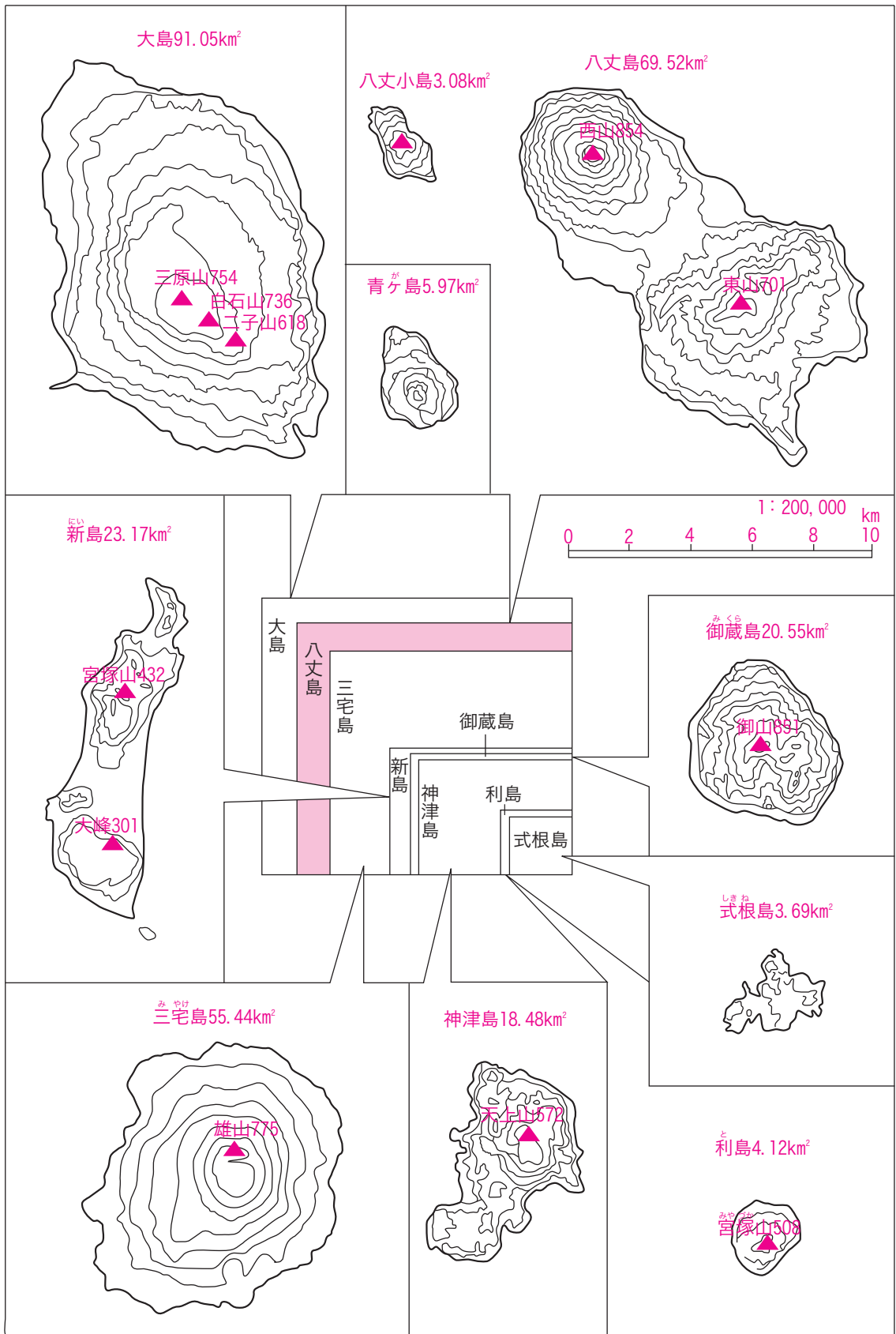
土地のようす、気候、島の生きものなどはどうなのでしょうが。

このようなことをくわしく調べ、人びとのくらしとどんなかわりがあるのか、学習していきましょう。

(一) 島のいちや形



南にある島 八丈島は、日本のは
 ぽ中心にある東京から、南へおよそ
 三〇〇キロメートルはなれた海上
 にあります。八丈島は伊豆諸島にふ
 くまれています。
 また、八丈島からもっと南には、
 小笠原諸島があります。
 伊豆諸島や小笠原諸島も、東京都
 にふくまれています。



● 中央の四角形は、島の広さを表わしています。

国土交通省国土地理院調べ 1997年10月1日現在

ひょうたん形の島

地図をみてわ

かるように、八丈島を上から見た形は、三原山（東山）と八丈富士（西山）がつながっていて、ひょうたんの形をしています。①

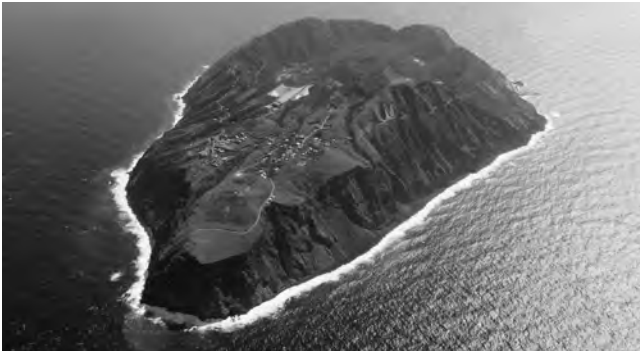
三原山と八丈富士のあいだの土地は、広く、平らで、多くの人たちが住んでいます。島のまわりには、けが多く海におちこんでいるところもあります。また、三原山の北側はけわしく、南側はゆるやかな傾斜地になっています。この台地にも多くの人たちが住んでいます。

青ヶ島

八丈島の六十七キロメー

トル南には、青ヶ島があります。青ヶ島は二重式火山の地形で、百八十人

青ヶ島



青ヶ島への連絡船 (還住丸)

ほどの人がくらししています。平成五年から八丈島との間をヘリコプターが飛ぶようになり、人の行き来は便利になりました。しかし、生活に使用される物などは船で運ばれ、欠航も多いので大変です。④⑮

(二) 東山(三原山)と西山(八丈富士)

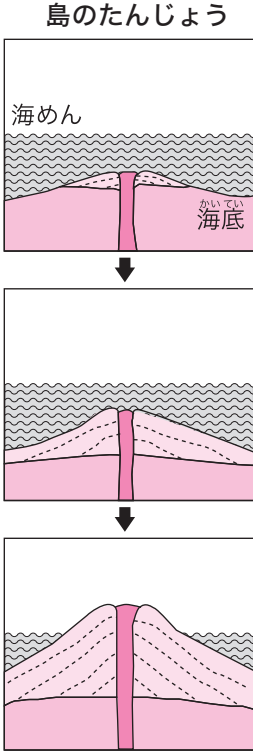
火山でできた島

大島や三宅島が

ふん火したように、日本は火山が多く、海の底でもふん火がおきていることがわかっていきます。

このように、海底の火山がなんどもふん火をくりかえし、長い長い時間をかけて、頭を海の上に出したのが、伊豆諸島の島じまで、八丈島もその一つです。

八丈島のできかたは、地質調査所の資料によれば、次のように考えら

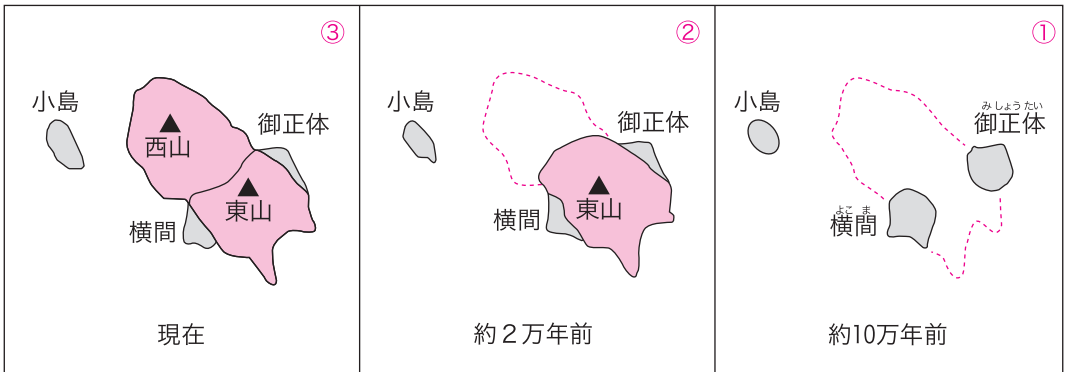


れています。

① 初めに、三つの火山が海の上に頭を出しました。横間・御正体・小島がそれにあたります (図①)。

② その後、三原山のふん火がはじまり、横間と御正体をつなぐ島になりました (図②)。

③ 一万年ぐらい前に八丈富士がふん火をはじめ、三原山とつながって今のひょうたん形の八丈島になりました (図③)。



古い三原山(東山)

現在の高さは

およそ七〇〇メートルです。⑨〇

十数万年前にふん火を始め、初め

の形は、今の八丈富士のようでした。

その後二万年ぐらい前に大ふん火

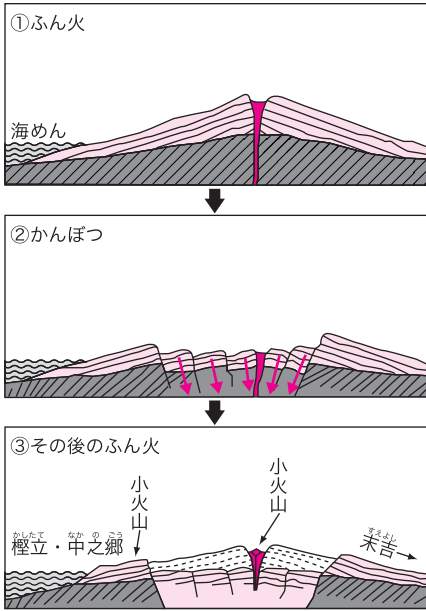
があつて、そのすぐ後に大かんぼつ

をおこしました。その後もふん火を

くりかえし、また、雨や風で岩がけ

ずられたり、土を流されたりして、

今の形になりました。



榎立・中之郷の人たちは、三原山の終わりごろのふん火で、よう岩や火山灰がつもった所に住んでいます。

また、三原山の切り通しなどで見

られる黄土色の土の層は、ふん火で

つもった火山灰やかる石などで、よ

く調べると、ふん火のようすがわか

ります。

この黄土色

の土は、水を

よくたもちま

す。このため、

三原山には水

のしみ出る所

が、たくさん

あり、それら



榎立から見た三原山



名古屋の滝 (未吉)

んがいなどに使つかわれています。

このように、三原山の土はつぶが細こまかく水もちがよいので、草木の育そだちが早く、シイ・タブノキなどがよくしげっています。

新しい八丈富士 (西山)

八五四メートルで、伊豆諸島いずしよとうでいちばん高い山です。ふん火を始めたのは、今から一万年ぐらい前と考えら

は、大川・鴨川かも・

からたき川・三

原川・名古屋なご川な

どの水げんに

なっていて、水

道・ビニールハ

ウス・田畑たはたのか

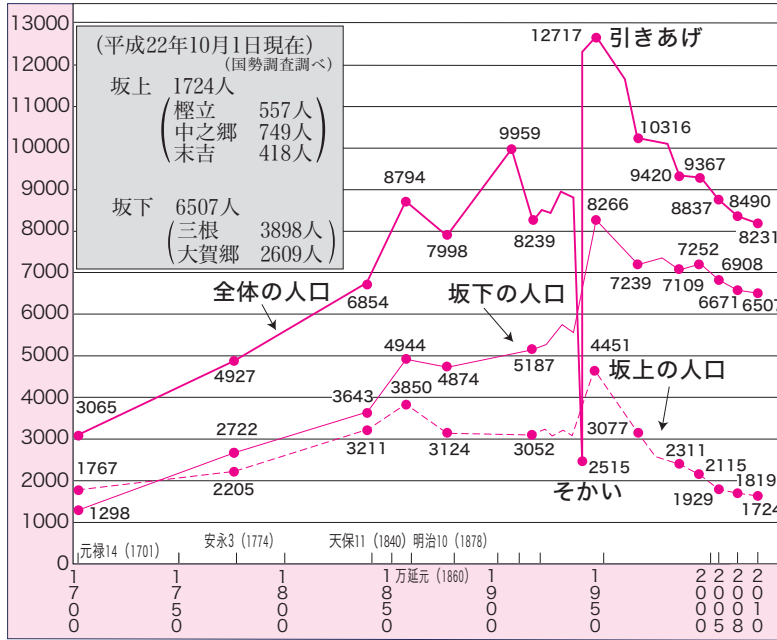
れています。②

八丈富士は、ふん火のたびにそのすそ野を広げ、三原山との間の海がうめられて、三根みつね・大賀郷おおかごうの平地へいちができました。また、神止山かんどやま・大賀郷おおかごう護神山ごしんやまとんぶなども、ふん火でできたものです。

八丈富士は、よう岩や石、じやりのところが多く、土が少ないので、はえているヒサカキ・タブノキ・ヤブニツケイなどは、育ちがよくありません。

八丈富士は、今はふん火を休んでいます。むかしの人が書いたものによれば、一四八七年、一五一八年から一五二二年にかけて、そして、

坂上と坂下の人口のうつりかわり (『八丈実記』、国勢調査などより)



一六〇五年にふん火したことがわかっていきます。
坂上と坂下 (さかうえ さかした のぼりよう)
 八丈島は、大坂トンネルと登龍とうげをさかいにして、坂上(榎立・中之郷・末吉)と坂下(かしたて なかのこう すえよし)

(三根・大賀郷)の、二つの地いきに分けられています。

グラフで見ると、坂上の人口は、平成十年と、三百年前とであまり変わらないのに、坂下はふえていることがわかります。

もともと、八丈島は、食べ物が少なくて飢え死にすることが多い島でした。食べ物が多ければ人口がふえ、少なければへったのです。

島は、雨が多く暖かいので作物によいのですが、雨で肥料分が流されやすい上に、雑草の育ちもはやく、台風や日でりなどで作物がだめになることが多かったからです。土の中でのいもが育ち、風や潮の害がすくな

いサツマイモがたくさんできるようになって、飢え死にすることが少なくなつたと言われています。

三原山みはらやまとそのまわりは、土のつぶが細かくて水持ちがよく、また、人々の努力どりよくでわき水や川の水が使えたので、麦むぎやアワなどの畑はたけだけでなく、

何百年も前から田んぼがありました。

しかし、坂下のじやり土やがんがらの土地では、土やわき水もなく、住すむのも農業のうぎようをするのも大変たいへんでした。

人々は、一にぎりの土も大切たいせつにして畑をつくり、ため池や用水をほり、土を運んでつきかため、田んぼをふやすなどの努力をしてきました。

ところが、昭和四十年しやうわ（一九四五

年）ころから、ようすが大きく変わってきました。道路がよくなり、水道や電気が引かれ、トラックを使って土を運び客土ができるようになって、坂下でも家を建てたり、畑をつくる人がふえてきたのです。

特に、昭和五十年（一九七五年）

ごろから生活に便利な坂下に移り住む人が多くなってきました。坂下は、

港や空港があり、役所や商店などが多く、つとめ先がふえてきたからです。



のうち
客土された農地

(三) 自然のめぐみときびしさ

暖かな島

八丈島は黒潮の影響を受けて、冬は暖かく霜がおりたり雪が降ったりすることは、めったにありません。木々はあまり紅葉しません。

冬でもいろいろな作物が作られています。特にアシタバは冬でもよく育ち、昭和五十三年（一九七八年）から東京などに生葉が野菜として出荷されるようになりました。

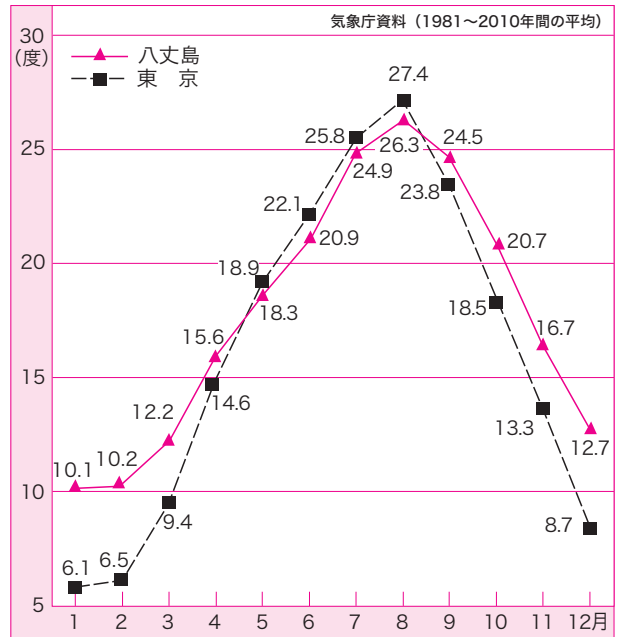
また、ほかの土地ではあまり見られない観葉植物や切り葉・切り花もさかんに送り出されて、島の人々のくらしにたいへん役立っています。

⑥8
⑧5



南方系のピローヤシのなみ木

八丈島と東京の平均気温





のうぎょうようすい なかの ごう
農業用水の池 (中之郷)

ゆたかな水

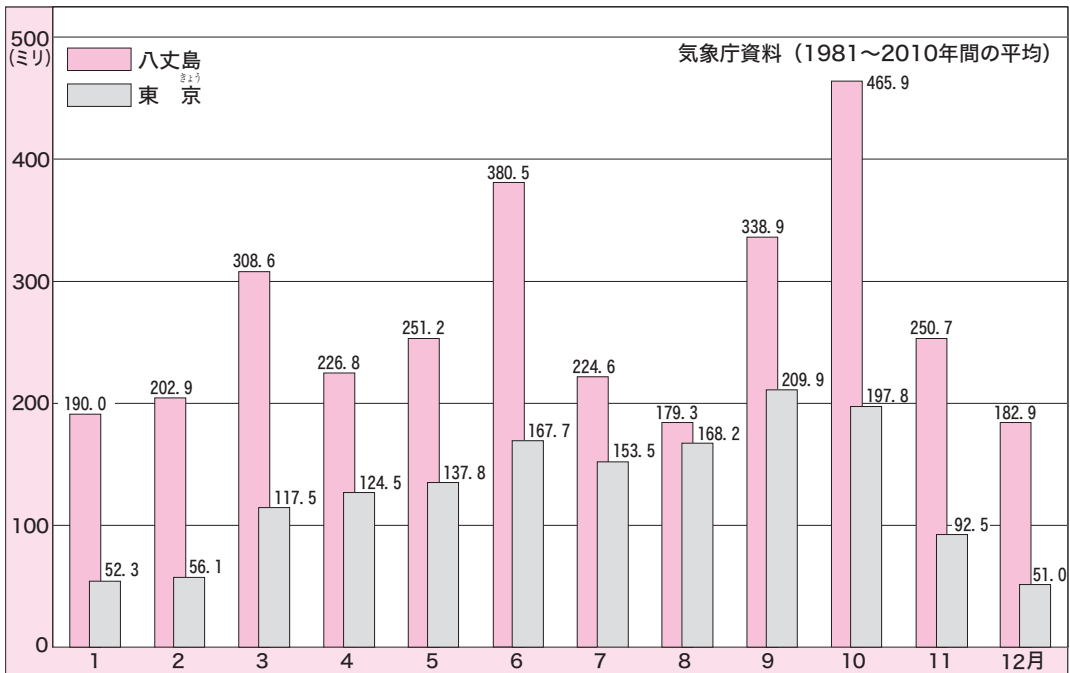
八丈島は雨が
多く、伊豆諸島
の中では、水に
めぐまれている
といわれています。
三原山が水

げんになっており、一年中水にこま
ることはありません。むかしはその
水を利用して、電気をおこしたり、
米づくりもおこなわれていました。

伊豆諸島の中で、水田があるのは、
八丈島だけです。

しかし、今では水田がへってきて
三根地区の一部をのこし、ほとんど
見られなくなっていました。

八丈島と東京の降水量





台風でこわれた家 (昭和50年10月5日 台風13号)

強い風と台風

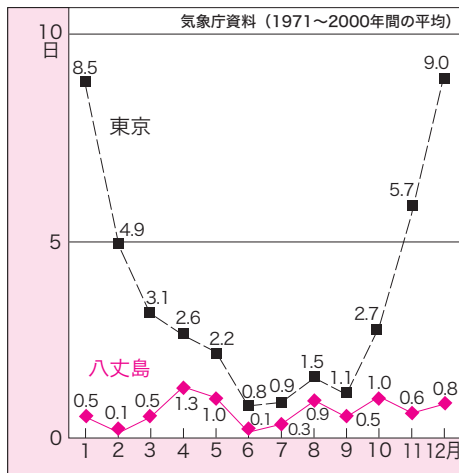
八丈島は、強い風

の日が多く、つゆ明け後の七月・八月はおだやかな南西風の晴れの日が続きます。九月になると北東風(ならい)の雨の日がだんだん多くなり、

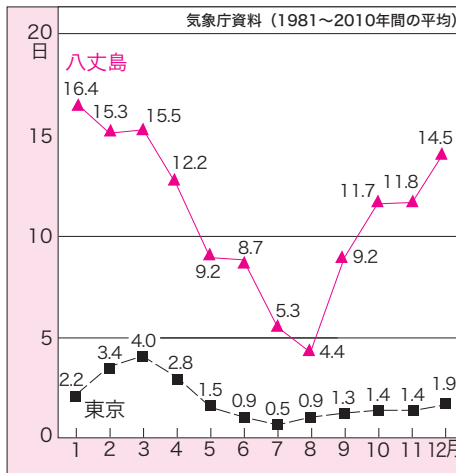
台風にもたびたびおそわれます。昭和五十年十月の台風十三号では、大賀郷小学校の校舎がこわれるなど、とても大きなひがいが出ました。

平成七年九月の台風十二号によって、港のていぼうがこわされたり、漁船が流されたりしました。また、十二月ごろからふき始める西風は、一月・二月ごろがとくに強く、四、五月ごろまで続きます。風が強

快晴日数 (雲量1.5以下の日数)



強い風 (風速10m/秒以上の日数)



いと、船や飛行機が欠航したり、漁に出られなかったり、農作物が塩害をうけたりしてこまることがあります。

風から守るくふう 一年を通して

強い風がふく八丈島では、風をふせぐために、さまざまなくふうをこらしてきました。

むかしの家は平家で、やしきのまわりには風よけの石がきや防風林がありました。今では風に強いコンクリートの家がふえています。

畑のまわりにも、風や潮による被害をふせぐため、ハチジョウススキ（まぐさ）やヒサカキ、オオバヤシャブシ（へいのき）などが植えられています。



ぼうふうりん
防風林



畑のまわりに植えられたハチジョウススキ（まぐさ）

(四) 島の生きもの 植物しよくぶつ

気候きこうがたたかく、しっけも多いので、昔から、シイ・タブノキ・ヤブツバキなどがおいしげり、一年中緑みどりにおおわれています。シダるいなども多くはえています。

⑥3
⑥5
⑥7

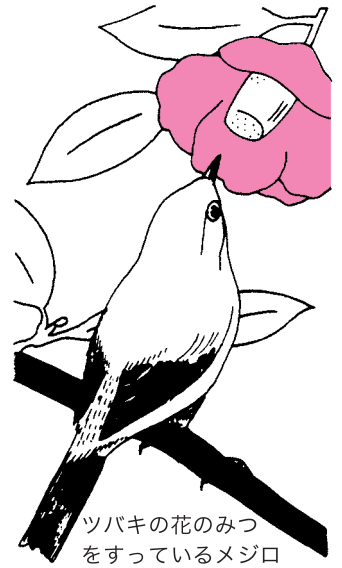


いしがき
石垣の上のヤブツバキ



こぼく
スタジイの古木

また、風よけなどのため、家のまわりにはシイ・ヤブツバキ・タブノキが、山や畑はたけには、ヒサカキ・ハチジョウススキ（まぐさ）・グミ・オバヤシヤブシ（へいのき）・クワなどが植うえられました。⑥3〜⑥7
今ではフリージアやフェニックス・ロベレニー、ストレリチアなどの花かき園芸植物えんげいもたくさん植えられます。③4
⑨1
⑨2



ツバキの花のみつ
をすっているメジロ

動物

島は植

物がしげ

っている

ので、ア

カコッコ・ヒヨドリ・メジロ・キジ

バト・ウグイスなどのいろいろな鳥

がいます。しかし、農薬のうやくやネズミた

いじにはなされたイタチのため、

鳥・マムシ・トカゲの数がとても少

なくなってしまうました。⑧6

また、昭和しやうわ三十五年にキジもはな

されましたが、今ではふえすぎで、

農作物のうさくもつのひ害がいもでています。

むかしは田畑をたがやしたり、荷に

物の運うんぱんに牛が使つかわれ、明治めいじにな

って乳牛にゅうぎゅうもやしなわれました。

島にもいろいろいな虫がいますが、

とくにシロアリのひ害には、むかし

からとてもなやまされています。⑧8

島のまわりには黒潮くろしおが流ながれている

ので、魚のしゆるいが多く、春から夏

のトビウオ、夏から秋のクサヤモロ

(むろ)は有名ゆうめいです。また、カツオ・カ

ンパチ・シマアジ・イズスミ・メジナ

なども多く、本土からもたくさんの

つり客きやくが来るようになりました。⑧9

島のくらしに役立っていたフクト

コブシ・ギンタカハマ(めつとう)・

テングサなどは、平成七年(一九九

五年)ごろから磯いその状態じやうたいが悪くなり、

ほとんど取れなくなっています。

三 島の人びとの仕事しごと



はち物の出荷もの しゅっか



夏とび漁りょう

みなさんのお家の人たちは、どんな仕事をしていきますか。

まわりを海にかこまれ、温おんだんでゆたかな自然しぜんにめぐまれた八丈島では、それを生いかした次つぎのような仕事しごとがさかんです。

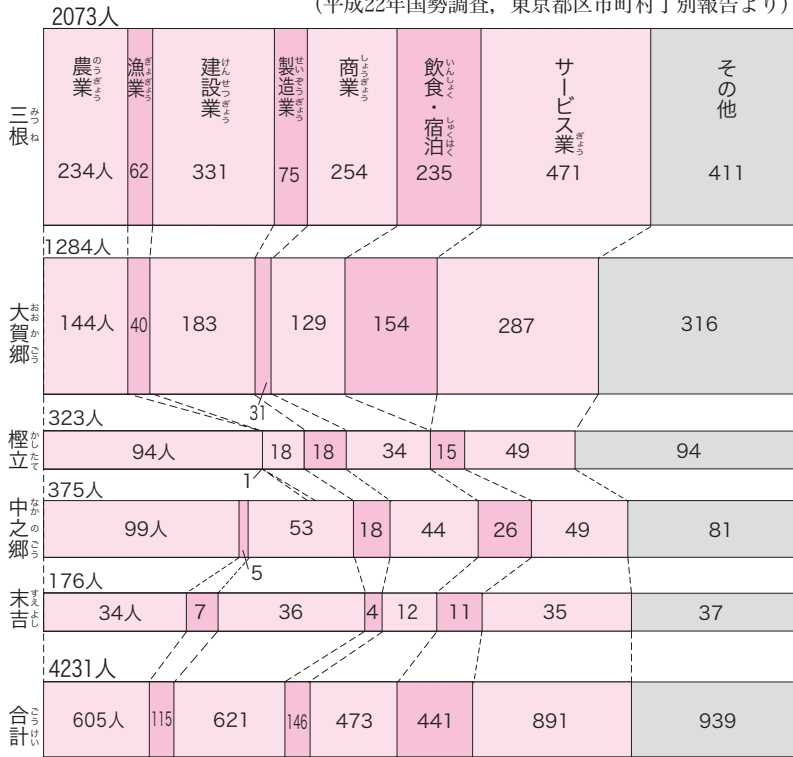
フェニックス・ロベレニーの切り葉ばなどの花かき園芸業えんげい、かつお漁りょうなどの漁業ぎょぎょう、自然をもとめてやって来る人びとをむかえる観光業かんこうぎょう。

そのほかにも、港みなとをつくったりする建設けんせつの仕事やお店などの仕事があります。

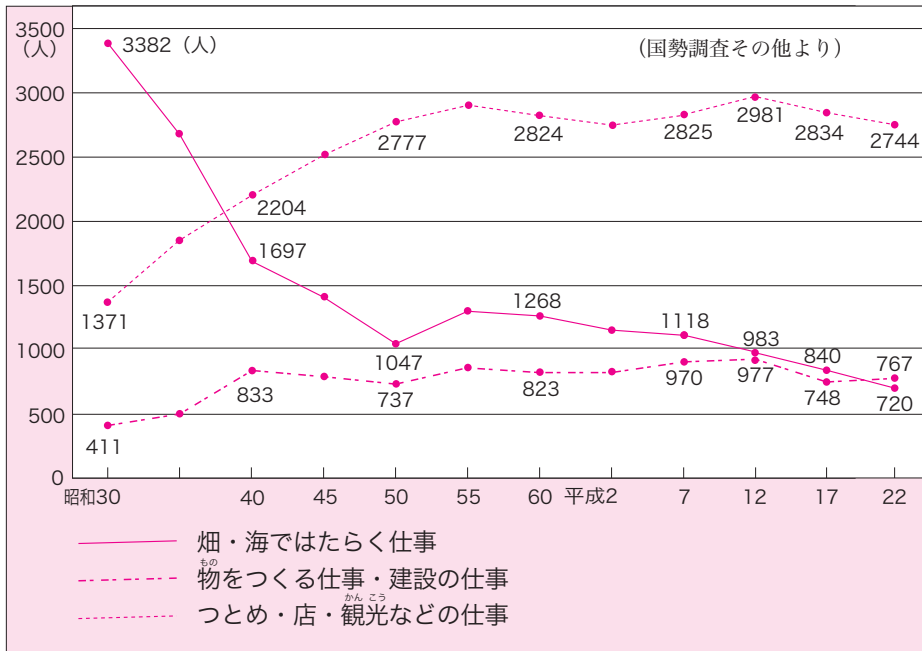
また、おかしからつたえられている島酒しまざけづくりや黄八丈きはちじょうおりも大切たいせつな仕事です。

5地区のはたらく人のようす

(平成22年国勢調査, 東京都区市町村丁別報告より)



仕事別人口のうつりかわり



(一) 島のはたらく人びと
島の人びとは、さまざまなお仕事をしています。

むかしと今をくらべると、仕事別の人口のようすがかわってきました。

(二) 島の農業

はちじょうじま

八丈島では、稲やいもなどの作物

そだ

をたくさん育てるために、力を合

せて、山をけずり、谷をうずめ、池

をつくり、田や畑を広げてきました。

そして、ほとんどの農家が、牛を

飼い、こやしを作り、土にまぜてよ

い田や畑をつくってきました。

よりよい作物を育てたいという農

家の願いは、どんな小さい土地にも

こめられているのです。

昭和三十五年ほどまでは、水田で

お米を作り、ちく産（乳牛養い）

や林業（炭焼き）の仕事もしてい

ましたが、これらの仕事がほとんど

なくなり、今では水田は口べ畑に変

わり、そして、アシタバ畑などがふ
えてきました。
最近では、高齢化が進み農業を

八丈島の産物の売り上げ高のうつつりかわり (八丈支庁産業課調べ) 黄八丈1.7 (%)

八 丈 島	昭和10年	0.3 ちく産 28.7 (%)	かいこ 5.4	りんさんぶつ 林産物 21.3	すいさんぶつ 水産物 35.5	その他 5.9				
		牛 6.9	バター・チーズ 21.7	木炭 13.6	魚 21.9	天草など 13.6				
	昭和31年	1.2	野菜 5.8	かき園芸 22.8 (%)	ちく産 16.1	かいこ 3.9	りんさんぶつ 林産物 16.0	すいさんぶつ 水産物 34.4	その他 7.2	
		野菜 5.7	はち物 3.9	球根 5.4	リバター 4.1	チーズ 5.6	粉乳 4.9	木炭 14.4	魚 22.4	天草など 7.2
	平成22年	5.0	野菜 9.0	花き園芸 55.9 (%)	きり葉・切り花 38.3	はち物 12.8	水産物 33.6	魚類 33.6	その他 0.0	
			野菜 5.7	はち物 5.4	きり葉 38.3	はち物 12.8	ちく産 1.1	りんさんぶつ 林産物 0.4	その他 0.0	

八丈島と日本全国の農業生産高比べ (八丈支庁産業課調べ) ちく産 1.7

八丈島 (平成22年)	花き園芸 84.8 (%)	球根 0.8	野菜 13.6
	切り花 7.8	はち物 13.6	大型ヤシ類 0.9
全国 (平成23年)	こめ 22.4 (%)	花き 4.1	野菜 25.9
	ちく産 30.9	くだもの 9.0	工業作物 2.4
	その他 5.3		

(農林省資料、『農業総産出額』より)

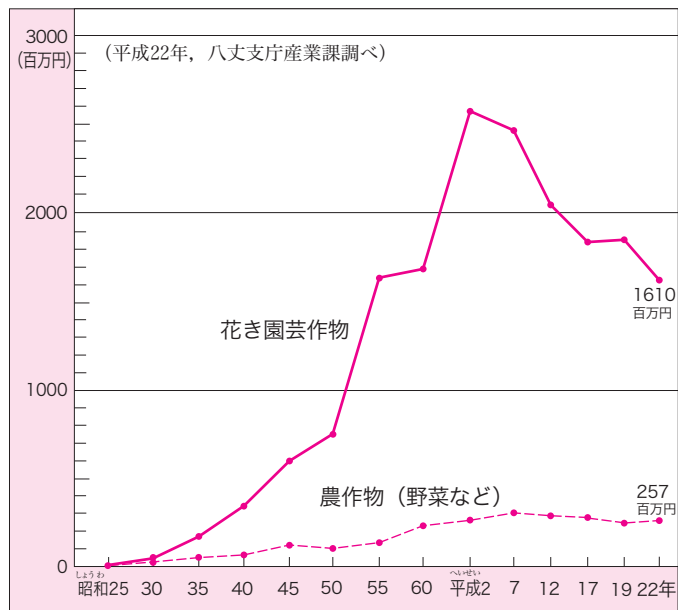
八丈島のおもな花き園芸作物

(平成22年 1千万円以上)
(八丈町産業観光課調べ)

1. 切り葉
 - ロベレニー (9億8766万円) ▼
 - ルスカス (4832万円) ▼
 - タマシダ (1470万円) ▲
 - レザーファン (6128万円) ▼
 - モンテスラ (873万円) ▼
 2. 切り花
 - フリージア (1億992万円) ▲
 - ストレリチア (1424万円) ▼
 - 洋ラン (293万円) ▼
 - サンダーソニア (961万円) ▼
 3. はちもの
 - ロベレニー (7083万円) ▼
 - ケンチャヤシ (3733万円) ▼
 - カンノンチク・シュロチク (1575万円) ▲
 - シェフレラ類 (5031万円) ▲
 - ドラセナ (1830万円) ▼
 4. 球根
 - フリージア (560万円) ▼
 5. その他
 - 大型ヤシ (1680万円) ■
- ▲ふえたもの ■かわらないもの ▼へったもの ●あたらしいもの

きなくなる人がふえ、使われない畑も多くなってきましたが、新たに農業をやる人が出てきています。 **さかんなロベ作り** 八丈島ではいろいろな花き園芸作物が作られています。 **ロベ** (フェニックス・ロベレニー) は、島の気候に合い、日本

花き園芸作物と農作物(野菜など)の生産金額



のロベのほとんどが八丈島産です。島の花き園芸作物を売った十六億円のうち、ロベの切り葉や鉢物を売った金額は十一億円と、たいへん多いです(平成二十二(二〇一〇)年)。 **花き園芸をさかんにする努力** 花き園芸作物は、高い値段で売れ



口べの作業



共撰共販出荷所

るときと、安いときのちがいが大きい作物です。そのため園芸作物を作っている人々は、

1. よい作物を育てる
2. 安定供給をする
3. 共同出荷をする
4. 新しい品種の物を、取り入れる
5. 品種改良を行う

などの努力をしています。

口べなどの値段の、時期と市場によるちがい（平成24年南海タイムス）

単位：100本 左：高値 右：中値

共撰共販市況速報 5月14日		大田花き		東日本板橋花き		東京フラワーポート		世田谷花き		仙花	
口べ	3,570	2,570	3,675	2,887	4,200	2,975	4,200	3,186	3,675	3,150	
レザー	4,935	3,326	3,045	2,782	5,250	4,594	3,150	2,100	4,725	4,725	
ルスカス	3,885	3,075	4,725	3,343	4,725	3,762	4,725	4,279	3,150	3,150	

共撰共販市況速報 11月12日		大田花き		東日本板橋花き		東京フラワーポート		世田谷花き		仙花	
口べ	2,205	1,492	3,465	3,192	3,675	2,273	3,675	2,812	2,100	1,867	
レザー	4,410	3,448	4,200	3,029	5,250	3,600	4,725	2,826	4,725	4,152	
ルスカス	4,725	3,045	2,310	1,848			6,300	5,513			



かんれい遮（寒さや風などから守るための網）



ビニールハウス

最近では、地熱発電所の温水を利用した温室や、国や都の補助金を使って、風に強い鉄骨ハウスやストロングハウス、ラスハ

ウスなどが建てられ、畑に行きやすいように農道の工事なども進められています。

共同出荷は、ロベヤレザーファン、ルスカス、サンダーソニアに加えて、平成十八年度から全ての切り葉や切り花で行われるようになりました。

野菜

八丈島では、自分たちが食べるための野菜を作っている人たちが、売るために作っている農家の人たちがたくさんいます。

農協のせり市を通して、島内のお店で売られているのは、サツマイモ、サトイモ、トマト、キュウリ、スイカ、パッション・フルーツなどで、百種類ぐらゐあります。

八丈島の野菜で、注目されているのはアシタバです。健康食品として、作る量が増えています

(平成二十二年六八三トシ生産)。八丈島では、大島や三宅島のような生食用が少なく、粉末など加工用が多くなっています。それは、生食用が安く、八丈島が東京から遠いからです。

らく農

牛乳やバターなどを作る仕事です。八丈島は、一年中青草がしげり、牛を飼うのにはとてもよいところです。島では、六百年よりもっと前から



あしたばのお茶や石鱈

ら、牛を養やしなつてきましたが、乳牛にゅうぎゅう

ではありませんでした。また、牛を

食たがべることは禁きん止しされていて、畑はたけや

田たんぼを耕かしたり、たい肥ひを作つくった

り、荷物にもつを運はこんだりしながら、家か族ぞく

の一員いちいんのように育そだてられていました。

八丈島はちじょうじまののう農のうは、百三〇年ほど前まへ

に外国がいこくから来こた乳牛にゅうぎゅうを飼かったのが始はじ

まりです。第二だいに次じ大戦たいせん前まへは、出でる乳ちち

の量りょうが世界せかい一いちの牛うしがいるほどさかん

でした。しかし、現げん在ざいでは、乳牛にゅうぎゅうの

数かずはすぐく減へつてしまいました。

農業協同組合の仕事

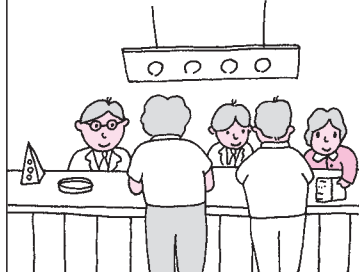

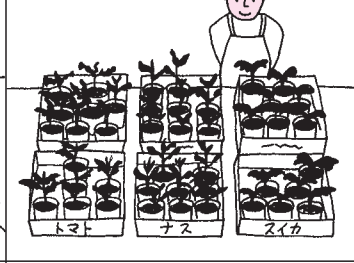




平成十三年、

八丈島農業協同組合が、ほかの伊豆

諸島しよとうの農協のうぎょうと一いっしよになって、東京

都島とうしよ農業協同組合ができました。

農協の仕事は次のようなことです。

<p>お金をあつかう仕事</p>  <p>ほけん 保険やちよ金、お金の かしつけ。</p>	<p>せり市を 開く</p> 	<p>苗木などを売る</p> 
	<p>農業の勉強</p>  <p>けんきゆうかい 作物の作り方の研究会、 「農協だより」を出す。</p>	<p>仕入れて売る仕事</p>  <p>ひりょう 肥料やビニールハウスの材料 などの買入れと販売。</p>  <p>にちようひん 日用品の買入れと販売。</p>

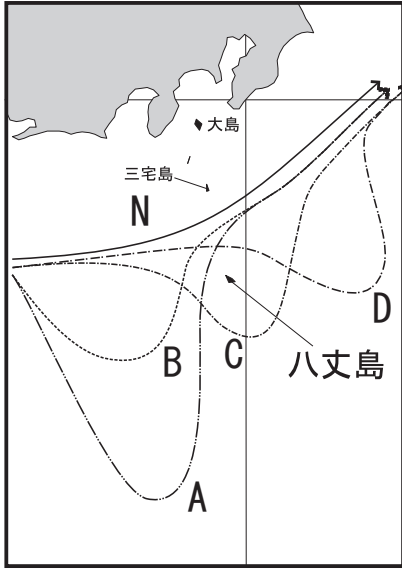
(三) 島の漁業

黒潮と漁業

はちじょうじま

八丈島の近くの海

は、よい漁場として知られています。それは、島の近くを黒潮という暖かい海流が流れていることと、島の近くの海が浅かったり、瀬といわれる場所があるからです。八丈島の北には、黒瀬や新黒瀬といわれる有名な漁場があります。そこは、深さが百



黒潮の流れのパターン

黒潮は、ほぼ50km（八丈島と御蔵島の間が約100km）、時速5kmほどで流れる。Nは、冷水塊がない時の流れ。A～Dは、冷水塊がある時の流れ。

く二百メートルほどですが、まわりは千メートル以上もある深い海です。瀬では、海流の力で海の底にある魚のえさになる栄養がわき上がってプランクトンがふえ、それを食べるために多くの魚が集まってきました。黒潮は上の図のように蛇行して流れ、その内側に冷水塊といわれる冷たい水の塊を伴うことがよくあります。黒潮が八丈島の近くを流れる年は、カツオやハマトビウオのよい漁場が、島の周りにできます。八丈島が冷水塊に囲まれた年は、流れがゆるくなり、深い海にすむキンメダイなどの魚が通りやすくなります。

魚の種類と漁期

八丈島の代表

39 ページのグラフにまとめました。

とれ高の多い魚は、カツオ、キンメダイ、ハマトビウオ、クサヤモロです。昔は、テングサやトコブシもたくさんとれましたが、水温が高くなつたこともあって、今はあまりとれません。

ムロアジ漁とハルトビ漁

(クサヤモロ)は、棒受け網という方法でとります。コマセをまいて魚をおびきよせ、大きな網で一気にくいとる漁です。

ハルトビ(ハマトビウオ)は、流し刺し網という方法でとります。

(都島しよ農林水産総合センターしらべ)

しゅるい	とりかた	漁期と禁漁期 (月)												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
トビウオ	流しさしあみ	ハルトビ				ナツトビ								
カツオ マグロ類	ひきなわ	盛漁期												
クサヤモロ	棒受けあみ								盛漁期					
キンメダイ メダイ	底魚1本づり	盛漁期												
イセエビ	底さしあみ	盛漁期			禁漁期				盛漁期					
トコブシ	もぐってとる	禁漁期				盛漁期				禁漁期				
テングサ	もぐってとる	禁漁期			盛漁期						禁漁期			

漁期
 盛漁期
 禁漁期

り過ぎもあって魚が少なくなったので、二〇〇一年から、とつてもよい数を決め、魚を守っています。

伝統あるくさやづくり

ムロヤト

ビウオなどは、ある時期にまとまつてたくさんとれます。

そのため、生で食べるだけでなく、長くとっておけるよう、くさやや塩ぼし、くんせいなどにしています。特に、くさやは、むかしからつくられていて、おみやげとして有名です。



カツオ漁 八丈島の

カツオ漁は、小型の漁船での漁に合っている「引きなわ」という方法で行わ

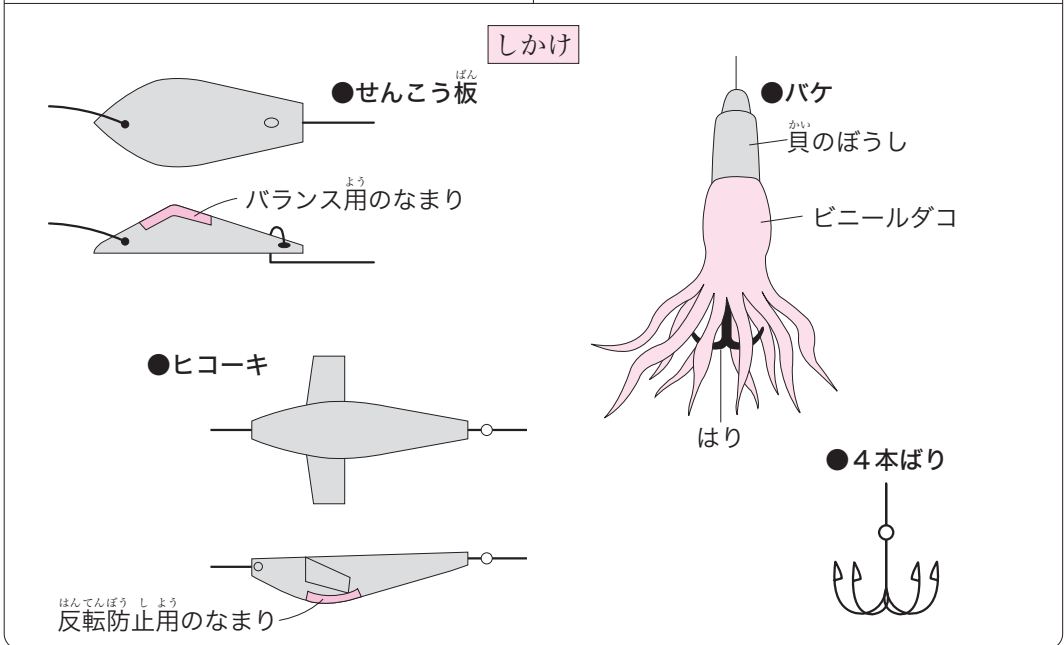
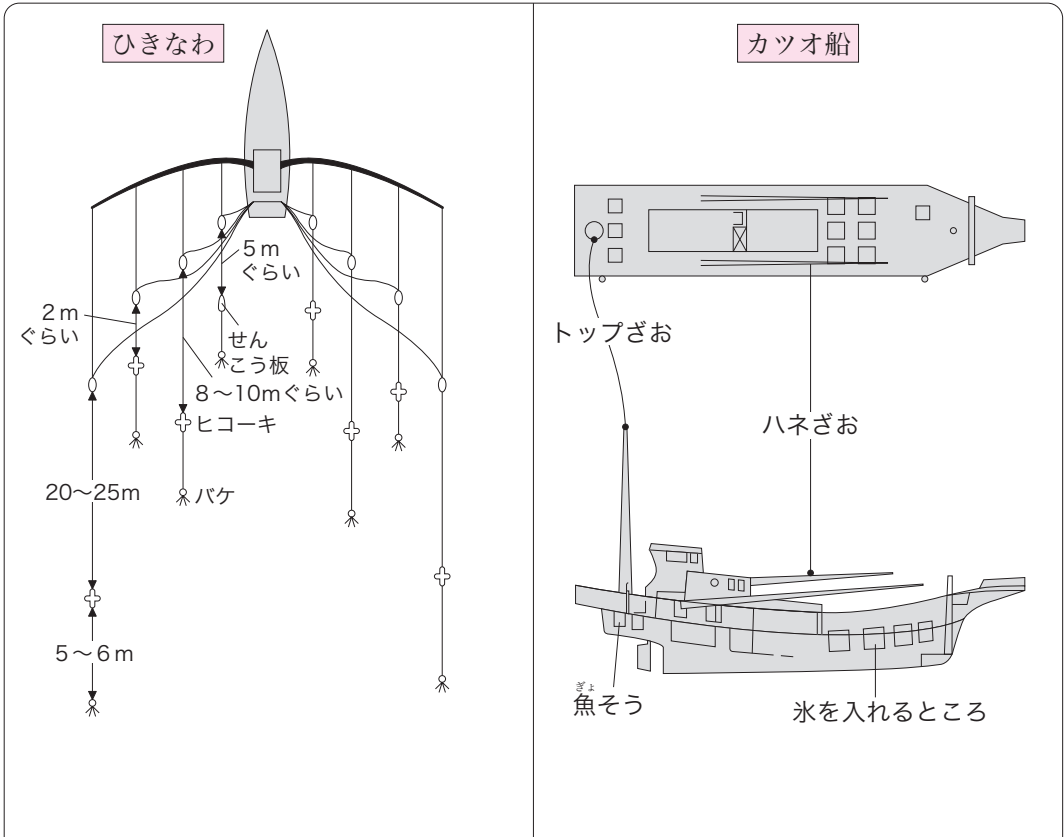
れています。船に乗るのは一人か二人で、日帰りで漁をしています。

「八丈島のカツオは日本一」といわれるほど、その品質がよく、築地の魚市場などで高い信用をえています。これは、漁師さんたちが、つりあげたときから出荷するまで、魚の鮮度をたもつ工夫をしていからです。実際には、次のような方法で行っています。



カツオの水あげ

ひなわりよう
カツオ引き縄漁のしくみ

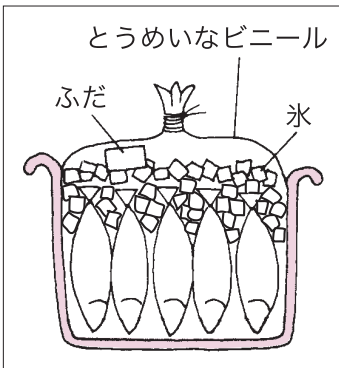


鮮度をたもつ工夫

○「活けじめ」……つったカツオの頭を棒でたたいた後、海水かけ流しのタルに入れ、血をぬきます。

○「どぶづけ」……氷と海水をいっぱい満たした魚槽に、カツオを入れます。これで鮮度をたもつとともに、船のゆれで魚がきずつくことをふせぎます。

○「タルづめ」……タルの中でビニール袋を広げ、海水と氷を入れ、さらにカツオを頭から立てるようにつめます。袋の口をしばって出荷します。



漁師のおじさんの話

ムロや夏トビの漁は昼間だけれども、春トビ漁は夜中なんだよ。底物は、朝三時から日暮れまでやっているから、体がきついときがあるよ。台風や低気圧で海が荒れると、船が出せない。これが長く続くと、困ってしまうね。

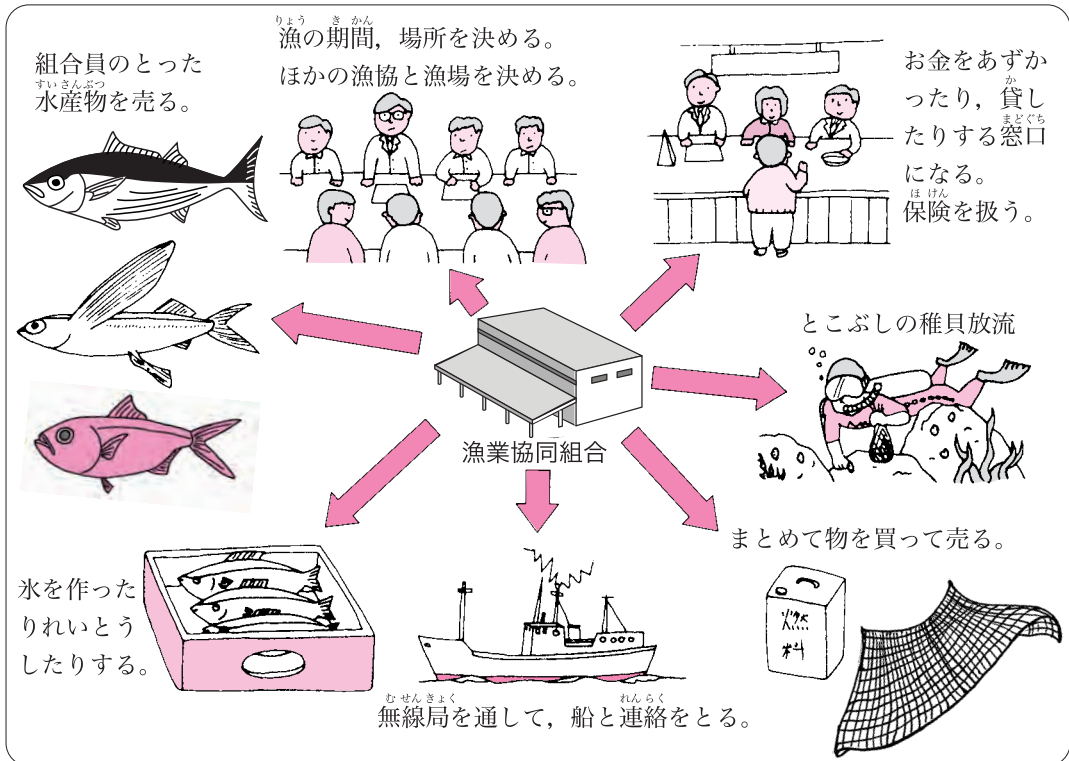
最近、海のようにすが変わってきた。水温が上がってテングサが少なくなり、あぶき（フクトコブシ）がなくなったりしている。カツオも、とれる年と、とれない年があるしね。海洋ニュースとが出ていてうれしいんだけど、魚をとる技術がどんどん進んで、島の周りでとれなくなったら、オナガなんか本当に少なくなってしまう。だから、ロベ切りしながら漁師をしている人もいるよ。それに、燃料の軽油が値上りしているしね。

漁師の仕事は、危険なこともあるけど、大自然が相手のしごとだから、豪快で気持ちがいいし、集中できる。それに、大漁になったときはうれしいもんだよ。でも、値の高いクロマグロも、水温が高くて来なくなったり。昔は、テングサやトビが豊漁で、トビならトビで一年食べるくらい景気がよかったときもあったんだがね。

新しい漁業をめざして 八丈島

の魚などのとれ高は、全体的に減り、働いている人も減ってきています。そこで、漁業協同組合（漁協）では、都、町と協力し、魚が集まる浮き漁しよう（パヤオ）を設置しています。また、トコブシ稚貝を放流し、栽培漁業に取り組んでいます。漁協女性部は、島のおいしい魚を食べてもらうために、魚を加工しており、島の学校給食などで使っています。また、市内でも島の魚を宣伝し、学校給食に使ってもらっています。漁師さんたちは、つり客を船に乗せてつり場に案内したり、トローリングする遊漁船の仕事もしています。

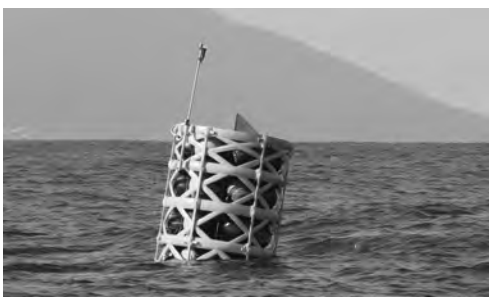
漁業協同組合のはたらき



漁業協同組合の仕事

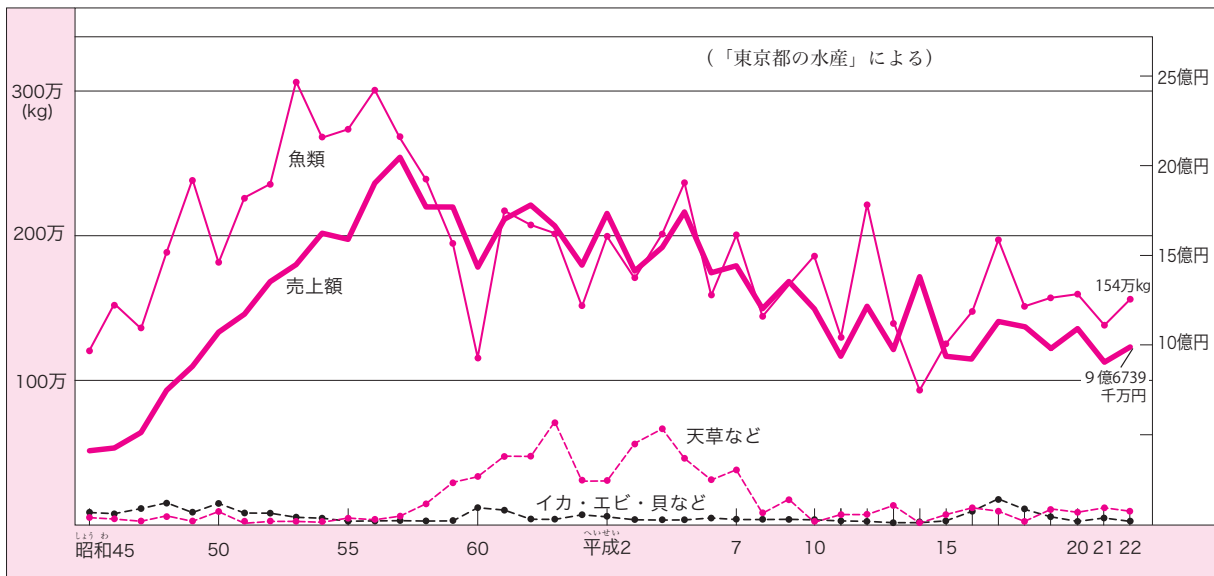


うみ そこ しず ぎよ
海の底に沈める魚しょう



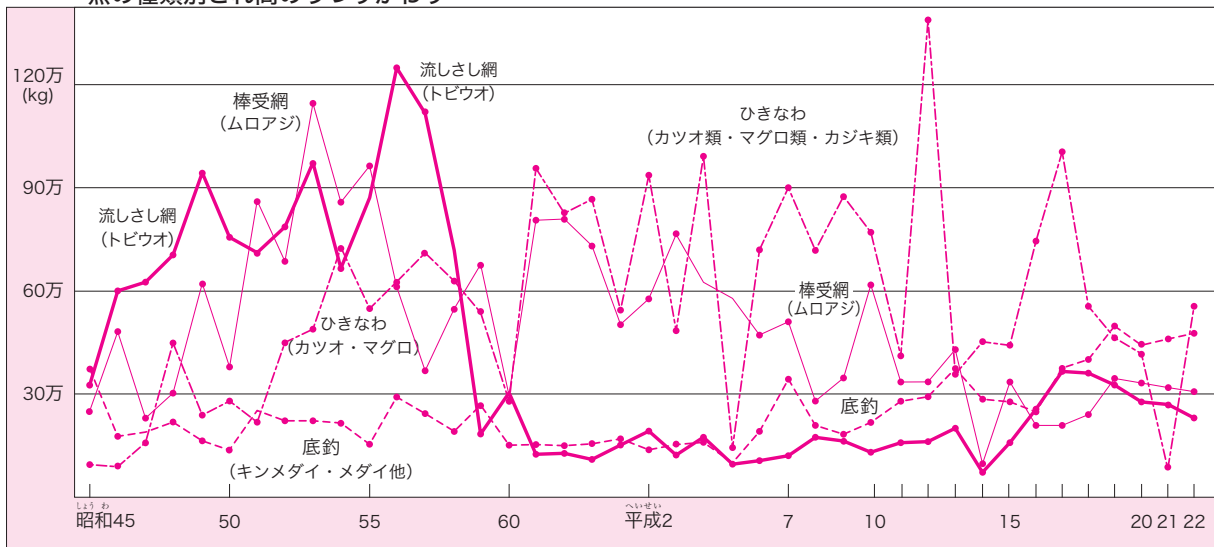
う ぎよ
浮き魚しょう (パヤオ)

八丈島の漁業のうつつかわり (種類別とれ高と売り上げ高)

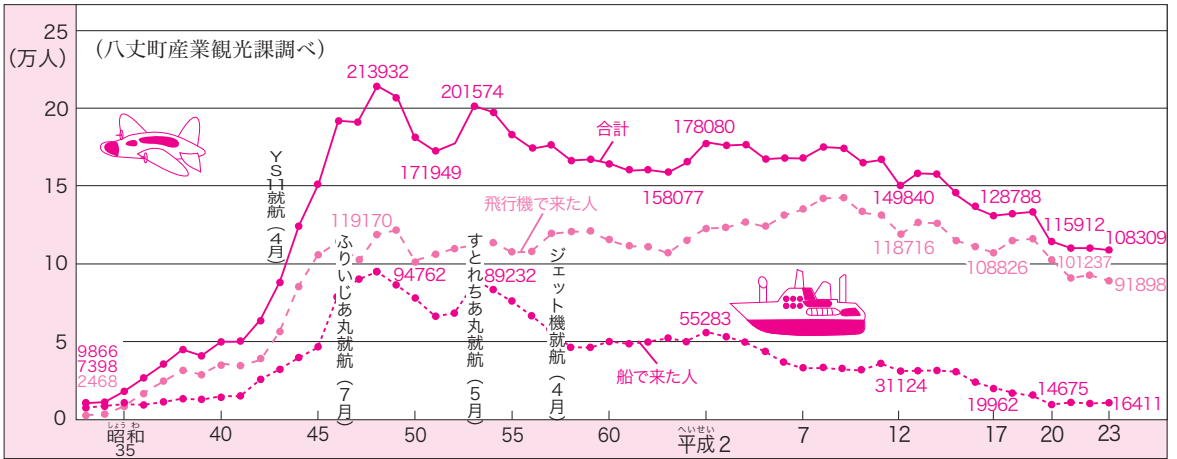


魚の種類別とれ高のうつつかわり

(「東京の水産」より)



島へ来た人のうつつかわり



しかし、年々、来る人の数がへって
います。
そこで、
町では、
観光客を
ふやすた
め、春の
フリージ
ア祭りや
夏祭り、
ヘルシー
フェスタ
など、い

ろいろな行事をおこなったり、空港
や海岸をせいびしたりしています。
最近では、人気のダイビングや釣
りの観光客も増えています。また、
スポーツイベントへの参加の呼びか
け、歴史や自然に興味のある人のた
めのツアーなど、要望に合わせた様々
な形の受け入れをすすめています。
観光の仕事をしている人 八丈島
に観光に来る人の多くは、ホテルや
旅館・民宿にとまります。
観光の仕事をしている人は、観光
客によるこんでもらうように、いろ
いろな工夫をしています。
あるホテルの支配人のおじさんの
話を聞いてみました。

ホテルのおじさんの話



町でおこなっているイベントには、ホテルの人たちもいろいろなお手伝いをしています。また、ダイビングやサーフィン、釣りのお客さんのための施設をつくったり、船で来たお客さんのために午前中から部屋を用意したりするなどの工夫をしています。「八丈の方は、みな優しいですね。」とお客さんに言われるのがとてもうれしいです。また、光るきのこを見るためのイベントなど、八丈島の自然をより感じていただけるようにしています。



つりをする観光客



ダイビング



とうきよう せんでん
東京で島の宣伝

(五) 店の仕事しごと

いろいろなお店

は、くらしにひつような品物しなものを、どんなお店で買っているでしょうか。買物調べをしてみましょう。

島の中には、電気製品せいひんや衣料品いりょうひんなどを専門せんもんに売る店、むかしからある「いろいろな物を売っている店」、スーパーマーケットなどがあります。



スーパーマーケットの中



でんきでん
電気店

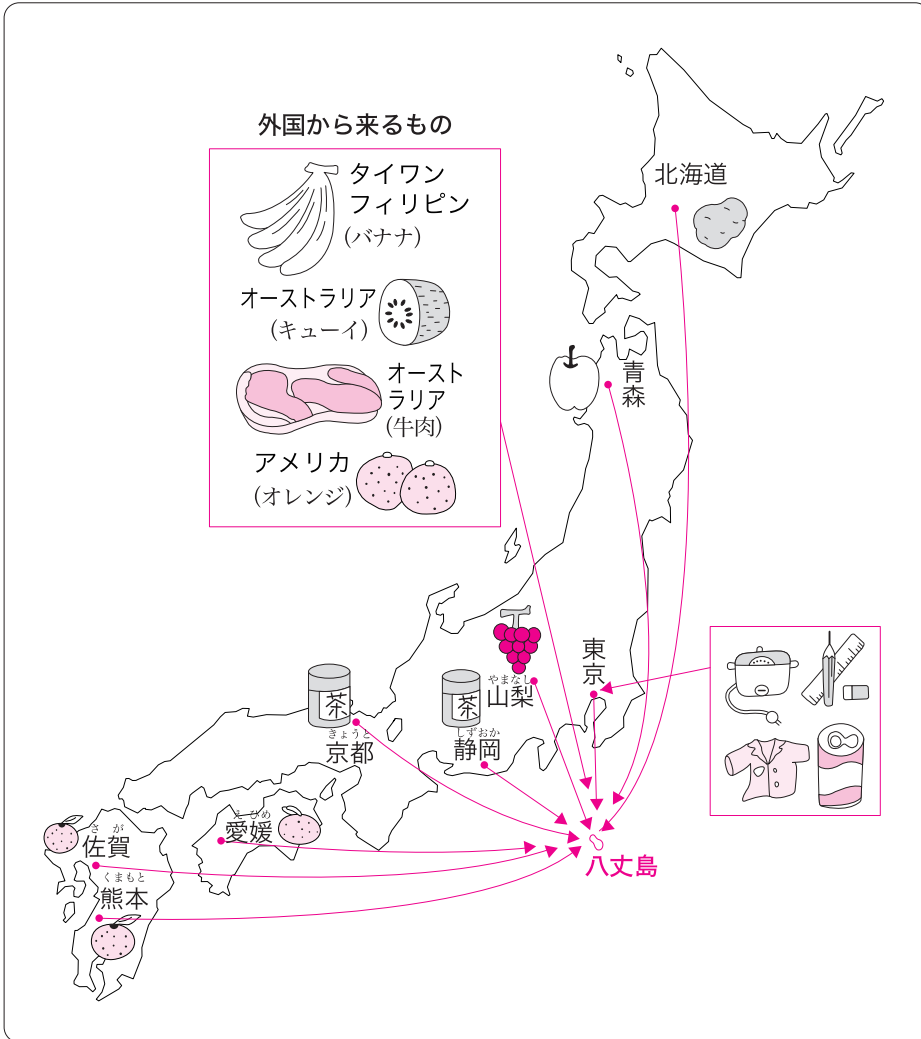


とけい
時計店



いろいろな物を売っている店

品物はどこから来るか



店に来る品物しなもの

品物がならべてあります。これらの品物はどこから来るのでしょうか。

てくれました。

店にはいろいろな

あるお店の人が、次のように話し

うちでは野菜・果物・お菓子など、大部分は都内から送ってもらいます。
 問屋さんとオンラインで結んでコンピュータで注文しています。また直接、送ってもらうこともあります。
 島内からの仕入れは、パン、とうふなどです。

買い物もののくふう

家の人は、毎日の買い物をする時、どんなことに気をつけているか、アンケートをとって調べましょう。

買い物のくふう

- 日づけをよく見たりするなど品物しなものの新しいしなに気をつけて買う。
- チラシなどにより、ほしい物を安くやす買う
- 買う物によって、お店を選んだりする。
- ・・・・・・・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・・・・・・・



ちらし広告



ちゆう車場

島では、車りようを利用して、買い物をする人が多いです。

離れ島はなである八丈島はちじょうじままで商品しょうひんを運ぶはこには、船ふねや飛行機ひこうきを使つかわなければなりません。それから自動車じどうしゃでお店に運とどびます。そのため、品物がお店に届とどくまで、日数がかかります。また、運ぶための費用ひようや、品物が傷いたんだりしないための費用が、品物の値段ねだんにふくまれたりもします。

この頃ごろは、テレビやカタログなどによって注文ちゆうもんする通信販売つうしんはんばい（通販つうはん）やパソコンによる買い物（インターネットショッピング）を利用りようする家庭かが増えてふいます。中には、外国に注文ちゆうもんする人もいます。

しょうてん 商店のくふう

ふうや努力どりよくをしているのか、あるスーパーマーケットのおじさんに話を聞きました。

遠くからでも来られるように、ちゆうしやじゆう車場をつくっています。これは交通こうつうの不ふ便べんな八丈島ではとても大事なことです。

また、地域ちいきのみなさんによるこんでもらうために高価こうかな品物や専門せんもん店であつかうような商品しょうひんでも特別とくべつにそれだけ東京とうきやうなどからとりよせることもあります。

それに、安売りの日をつくったり、よい品物をいつでもそろえておくためのくふうなどもしています。



お金をはらっているところ

しょうてん
商店は商工会しょうこうかいに入いって、力を合あわせています。

商工会は、売り上げがどのようなすればふえるか、お店ではたらく人たちが気持きもちちよくはたらくるようになるにはどうするか、などの講習こうしゅう会かいを開ひらいたりしています。

夏なつになると八丈島夏祭りまつり、十二月には福引ふくびき大売あつり出しなどをして、お客きやくさんを集あつめることもしています。



夏祭り



大売り出しの福引き

(六) 建設の仕事

左の写真は横間道路の写真です。この道路は、坂下地区と坂上地区をむすぶとても大事な道路です。

また、横間の展望台から見える八丈富士や八丈小島は、すばらしい景色で観光の名所にもなっています。東京都では、この道路をより安全



横間道路 (平成6年4月に完成)

に安心して通れるようにするために、六十一億円のお金と、十年以上の期間をかけて工事をおこない、完成させました。



道路を広げる工事

このような仕事を建設の仕事といえます。

このほか、港をつくりかえたり、飛行場を広げたりするための工事や、学校や役所などをたてたり、みなさんの家をつくるのも建設の仕事です。

八丈島には建設の仕事をしている人がたくさんいます。

(七) 古くから島に伝わる仕事しごと

黄八丈きはちじょうは、八丈島にむかしからつたわる大事な仕事だいじで伝統的工芸品でんとうてきこうげいひんとして国からも指定していを受けています。

④2



はたおり

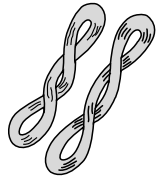
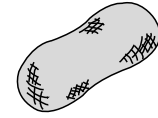
まゆ

糸ひき

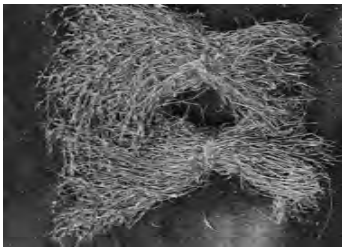
そめる

はたおり

黄八丈が作られるまで



座繰り機ざぐりきで糸をひく（今は、糸を島外とうがいからとりよせている）。



かんそうしたカリヤス



ふしづけ



沼づけぬま

黄

(三十日)

- カリヤス (コブナグサ)
- かんそうしたカリヤスをせんじる。
- ふしづけ (しるにつける)。
- あくづけ (ツバキ・サカキのはい)。
- かんそうさせる。

かば

(四十日)

- まだみ (タブノキ)
- 三十年以上たつた木
- 生皮なまかわをせんじて、その中に
- やきばいを入れて、ふしづけ (何回もくりかえす)。
- あくづけ。

黒

(五十日)

- シイ (スダジイ)
- かんそうしたシイの皮を七、八時間ぐらいせんじる。
- ふしづけは黄・かばと同じ。
- 沼づけ (鉄分の多いどろ田)。

1. たて糸たていとのりづけをする。
 2. 糸いとくり (わくにとる)
 3. せいけい (たて糸千五百本ぐらい)
 4. せいしよく (たて糸をかけて、おり始める)。
- はたおりまで

黄八丈の仕事をしているおばさんは、次のように話してくれました。

カリヤスをほしているとき、急に雨が降ってくる、家中の人がそう出でとりこまなくてはならないのです。それは、すこしでも雨にぬれると、色がおちて、そめるときにいい色にそまらないからです。

また、のりづけによって、うまくおれるかどうかきまるので、すごくしんけいを使います。

これからは、黄八丈を守りつづけていくために、わかい人の手がひつようです。

島酒

八丈島には、酒をつくる工場が四つあります。ここでは、おもにさつまいもや麦を使つて、しょうちゅう（島酒）をつくっています。

つくられた島酒は、島内をはじめ、東京の方にも送られています。今では観光みやげにもなっています。



島酒をつくっているようす

四 八丈島のうつりかわり



①東光丸の碑 (末吉、台ヶ原)



②ランプ



③水がめ



④自在かぎ

わたしたちは、これまで、今の八丈島のようなすや島の人たちの仕事、くらしのくふうなどを調べてきました。しかし、今のようになるまでには、いろいろなできごとや人びとの苦勞などがありました。

むかしをたずねて 上の①の写真は、太平洋戦争のとき、八丈島の人を乗せたそ開船「東光丸」が沈められ、多くの人々が命をなくした悲しいできごとをしるした石碑です。②・③・④の写真は、むかしの八丈島の人びとが使った道具です。⑭
むかしのようすを知るには、このように、残っているむかしのものをしらべるやりかたがあります。



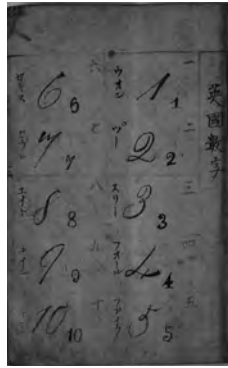
裏見ヶ滝の用水 (中之郷)



いぶりやの池 (榎立)



水の碑 (末吉)



「数術初人」(歴史民俗資料館)



ほうそうの碑 (三根)

ほかには、むかしの人びとが生活していった所をほつてみる方法(発掘)、言い伝えやむかし話を調べる方

法、むかし書かれたもの(古文書)を読む方法などがあります。

年表をみて、これから、八丈島の

うつりかわりを、次の八つに分けて学習していきます。

- (一) 大むかしの八丈島
 - (二) 室町時代の八丈島
 - (三) 江戸時代の八丈島
 - (四) 戦争前までの八丈島
 - (五) 戦争中の八丈島
 - (六) 戦争後の八丈島
 - (七) 八丈町のたん生
 - (八) むかしから伝わるもの
- この本のうしろに八丈島のできごとの年表があります。それも利用しながら学習していきます。

(一) 大むかしの八丈島

八丈島には数千年前から人が住んでいたことがわかっていきます。その人たちは、丸太を石の道具でほって船をつくり、黒潮をわたって来たのでした。そのころのようすは、次のいせきの発掘の結果から、わかったものです。

湯浜いせき・倉輪いせき 両方のいせきとも、榎立の元温泉ホテルの敷地内で発見されました。

湯浜いせきは、昭和三十七年の夏に、三原中学校の生徒が磨かれた石おのを発見したことがきっかけになって、調査が始められました。④④

倉輪いせきは、昭和五十二年に発

湯浜いせきと倉輪いせき（湯浜遺跡・倉輪遺跡の発掘調査報告書より）

		湯 浜 遺 跡	倉 輪 遺 跡
発 見	ようす	榎立温泉ホテルの温室工事現場から三原中の生徒が石おのを発見	榎立温泉ホテルの温水プール工事による。
	年月日	昭和37年夏	昭和53年9月
本格的調査		昭和39年3月、昭和52年2月	昭和53年3月～昭和61年5月までの7回
出 て き た 物	家あと	たて穴式2、ろあと、土のあな	家あと2、ろあと5、土のあな4
	土 器	厚手でもようのないもの	近畿・関東などからきた縄文式土器
	石 器	石おの、たたき石、石ざらなど	矢じり、みがき石、石ざら、と石など
	動 物		イノシシ(多量)、犬・魚・鳥・クジラなどの骨
	その他		人骨(大人の男1人、大人の女2人分)かざりもの(みみかざり、たれかざり)
年 代		約6500年前	約5500年前



家のあとと石器（湯浜いせき）

見され、人骨や耳かざり、ペンダント、犬やたくさんのイノシシの骨などがみつかりました。④⑤
これらのいせきの調査から、次の

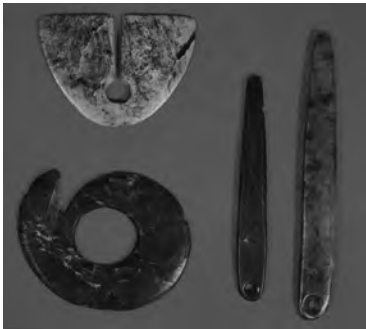
ようなことがわかってきました。

①八丈には、六千五百年ほど前から人が住んでいたこと。しかし、ずっと住み続けていたわけではないこと。これは、人の住んでいたあとや出た炭を調べてわかりました。

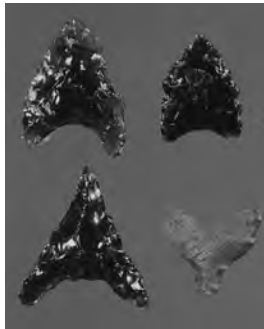
②人びとは、島伝いにうつつて来て、またうつつて行った、あるいは死に絶えたこと。それは、いせきの規模、神津島産の黒曜石の矢じりや本土から持ち込んだ土器、丸木舟を作ったと思われる石器が出ていることからわかりました。

③水が近くにあり、木の実や山いも、魚・貝・鳥などが手に入りやすい場所に住んでいたこと。倉輪いせ

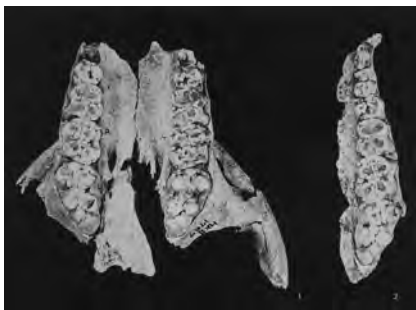
倉輪いせきから出たもの



石のかぎり物



黒曜石などの矢じり



イノシシの骨

き時代に、犬やイノシシの骨がたくさん出ていることから、以前に持ち込んでふえたイノシシを狩りしたのではないかとも考えられています。

生活は、自然のきびしさや食べ物がかぎられていることなどから、かなりたいへんだったと思われる。

八重根いせき 八重根漁港を広げ

る工事をおこなっていたところ、地層の中に三つの層になっていくまわ、弥生時代から江戸時代ころのいせきが発見されました。

魚や海草などを煮たくさんの独特な土器や炉のあと、糸をつむぐ道具、鎌倉時代ころに本土で使われた中国のお金、ふいごの破片なども出土しています。農業については、稲もみのあとが見ついた奈良時代の土器が出ており、鎌倉・室町時代のイネ・アワ・オオムギもありました。



地われの海砂

江戸時代の地震の時に、できた地われに津波の海砂が入りこんだものも見つかっています。

八重根いせきから出たもの



中国の古いお金と糸つむぎの石

八重根いせき (発掘調査 昭和62年10月～平成3年5月までの4回)

(八重根遺跡発掘調査報告書より)

		第1文化層 (地層の第VI層)	第2文化層 (地層の第IV層)	第3文化層 (地層の第II層)
時代		弥生時代後半～古墳時代前半	古墳時代後期～奈良・平安時代	鎌倉時代～江戸時代
出た物	炉・土杭	炉(ろ) 1、土杭(大1、小6)	炉121、土杭8	土杭群
	石器	石器を作ったかけら		
	土器	弥生式(煮炊き用のかめ、貯蔵用のつば) 古墳時代のお碗、杯(本土産)	厚手の独自の物(魚・貝・海草の煮炊きに使ったつば・かめ・はち・碗・杯)	陶磁器
	その他	糸つむぎ用の石		ふいごの部品、中国の古いお金、牛一本分の骨(うめられたもの)、地震の地われのあと、大溝、玉石垣
栽培植物		土器にイネもみのあとがある	イネ・アワ・オオムギの栽培	

※火の湯いせき(平成元年8月発掘)の調査で、平安時代に海水から塩をつくっていたこと、奈良時代に八丈にイネがあったことがわかった(栽培したかは不明)

(二) 室町時代の八丈島

室町時代の末の八丈島 八丈島は、

鎌倉時代には幕府によって直接治

められ、また室町時代には、関東管

領である上杉氏の家来であった、神

奈川の奥山氏によって支配されまし

た。支配といっても、三年に一度ほ

ど船で絹織物を運ぶ程度でした。

室町時代の末になると、神奈川の

奥山氏、三浦の三浦氏、小田原の北

条氏の争いの場となり、最後は北条

氏が勝利しました。

この争いの原因も、「丹後（絹織

物）」であったといわれています。

上杉氏の支配のころから「丹後」につ

ける印が決まっています、北条氏の支

室町時代の八丈島支配

この表の人名は、ずっと八丈にいた者もあるが、来島した者をそのつど書いたものもある。

		領主名	奥山氏 (上杉氏)	北 條 氏	三 浦 氏
		本拠地	神 奈 川	小 田 原	三 浦 半 島
上杉時代	1338 (南北朝時代)		奥山伊賀、菊池治五郎		
	1456 (室町時代)		佐右衛門		
	1483 (戦国時代)		奥山八郎五郎忠茂		
	1486 (")		奥山新五郎忠利		
二者並立	1490 (")			朝比奈 (あさひな) 六郎	
	1498 (")		奥山式部 (八郎五郎忠弘)	長戸路 (ながとろ) 七郎右衛門	
	1503 (")			菊池右馬之助	
	1505 (")		奥山八郎次郎忠督		
三者並立	1507 (")			太郎三郎	奥山彌三郎 (やさぶろう) (中之郷を支配)
			(坂下・榎立・小島を支配)	(末吉・青ヶ島を支配)	
	1512 (")			左衛門太郎 (三浦に降伏)、藤兵衛	
戦争	1513 (")			長戸路十兵真隆	
	1514 (")		奥山八郎五郎北条に降伏	奥山八郎五郎 (左の神奈川代官と同一人物)	奥山彌三郎入島 奥山彌三郎北条に討たれる
	1515 (")		奥山八郎次郎入島		
		奥山八郎五郎北条に降伏	(北条軍の勝利と支配)		
北条時代	1516 (")			長戸路七郎左工門、水野七郎左工門	
	1517 (")			弥蔵 (やそう)	
	1522 (")			奥山式部忠督 (元神奈川代官八郎次郎改め)	
	1525 (")			奥山与次郎忠俊	
	1527 (")			長戸路七郎左衛門真定	

配のころには、年貢が「鬼丸」・「蛇丸」という船で運ばれたといわれるほどで、八丈は絹の産地として重要だったのです。

現在の八丈島には、奥山・菊池・浅沼（長戸路）などの姓が多くあります。これらの姓は、代官として八丈島にやって来て、その後も地役人や神主などとして島の支配層となった家柄に關係のある姓です。

生活のようすはよくわかっていませんが、少ない記録の中に残っているものを見ると、

古文書

八丈年代記

噴火や飢饉などで苦しんだようすがわかります。

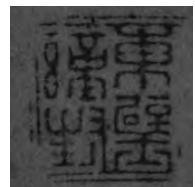
丹後につけた印



龍泉美記の印

飢饉や災害の記録

1456 (康正2) 年	9月に大風がふき、また、病気が非常にはやった。飢饉で、牛を食いに山に入った。
1487 (長享元) 年	11月噴火 (ふんか)。島中ひどい飢饉になった。
1503 (文亀3) 年	春、干ばつで大地が乾 (かわ) いて割 (わ) れた。2月には雪や霜 (しも) が何回もふった。
1505 (永正2) 年	大飢饉。3年間山に住み牛を食った。牛を食わなかったのは役人や神主 (かんぬし) など18軒 (けん) だけだった。
1506 (永正3) 年	飢饉で作付ができなかった。種などをお願いしに国地に船が出、帰ってみんなで分けた。この年麦のできがよかったので、死人はなかった。
1510 (永正7) 年	元旦 (がんたん) に大風。1月2日に洪水 (こうずい) になった。
1511 (永正8) 年	大風がふき作物はとれず、死んだ人が出た。
1512 (永正9) 年	飢饉で年貢 (ねんぐ) を1年分おさめられなかった。
1518 (永正15) 年	富士山が噴火。6年続く。特に、1522 (大永2) 年と翌年は、大きい噴火であった。人家に煙 (けむり) がかかり、麦や蚕 (かいこ) がだめになった。
1532 (天文元) 年	麦がだめになった。餓死人 (がしにん) が多く、5つの村とも牛を食いに山に入った。



東壁謹封の印

(東京都公文書館蔵「八丈島古文書類」より)



うめつじのりきよ
梅辻規清
なかのごう
(中之郷)



うきまたひでいえ
宇喜多秀家
おおかごう
(大賀郷)

江戸時代になると、八丈島は幕府に直接治められるようになり、また、多くの流人が送られてくる所になりました。⑫

流人は、二百六十五年間に千九百人ほどになっています。流罪の理由にはその時代を特ちょうづけるものもあり、現代では考えられないよう

(三) 江戸時代の八丈島 流人と八丈島

およそ四百年前、

特徴的な八丈流人 「死」は八丈で許されることなく死んだ人、「許」は赦された人。

名前	流された期間		できごとの内容
宇喜多秀家	1606~1655	死	関が原の戦いの西軍の総大将。戦いに敗れ、家族等13人が流された。
宗 寿	1683~1701	死	町人流人の初め。不受不施(ふじゆふせ)派の罪で流された。
山本兵助	1687~1698	許	知人が吹(ふ)き矢でツバメを殺しているのを見ていたというので生類憐(しょうらいあわれ)みの令により流された。
天野五郎太夫	1687~1693	許	江戸城で井戸に蓋(ふた)をしておかなかったため、猫(ネコ)が落ちて死んだので、流された(生類憐みの令)。
伊左衛門	1687~1693	死	病気の馬を捨(す)てたというので流された(生類憐みの令)。ほかに9人いっしょに流された。
三郎左衛門	1775~1816	死	飛騨(岐阜県)の有名な百姓一揆(大原騒動)のリーダーであった。
折田与右衛門	1792~1807	許	藩主が幕府に禁じられていた鶴をとったため、身代わりに流された。
佐々木卯之助	1836~1868	許	飢饉のため、農民に幕府の鉄砲場(てっぽうば)の開墾(かいこん)を勝手に許したとして、青ヶ島に流された。許されたが島に残った。
利右衛門	1843~1860	許	万延元年(1860)におきた、流人30人ほどによる「利右衛門騒動(そうどう)」のリーダー。騒動は失敗し、皆無残(むざん)な最期をどげた。
梅辻規清	1847~1861	死	京都上加茂神社の神主。神道を広めた。
丹宗庄右衛門	1853~1868	許	回船業で島津家の御用を勤めていた。藩政立て直しのために行った密貿易(みつぼうえき)の罪で流された。
八郎(八老)	1860~1862	許	水戸一揆(みといっき)に関係して流された。明治維新(いしん)により2回も許された。末吉に養蚕(ようさん)の方法を伝えた。
鹿島則文	1866~1868	許	鹿島(かしま)神宮(じんぐう)の宮司(ぐうじ)の長男。勤皇(きんのう)の志士(し)であった。明治維新により許されて帰国した。

なものもあります。

流人の中には、さむらいやおぼろさん、大工さんのような学問や技術を身につけた人もいました。こうした人たちは、村の書記をやったり、教育をしたり、さまざまな技術を伝えたりして、島にとって大切な人びととなりました。

特に江戸時代の初め百年くらいは、武士やおぼろさんが多く、しかも人数も少なかったので、島の人びとも流人を大切にしました。

しかし、その後は、毎年たくさん流人が送りこまれ、しかも、罪の内容もけんかやばくちなどがふえてきました。そのため、島で抜け舟（島

抜け）や暴動などがおこるようになりました。

流人が残したもの（『八丈島流人銘々伝』より）

名前	年代	おこなったこと
和田藤左衛門	1728～1769	サツマイモを切ってほした「きんぼし」を作った。
勘兵衛	1768～1783	とうふの作り方を伝えた。
下枝采女	1769～1782	お多福豆1つぶを植えたことから、八丈島・小島に広まった。
加藤又兵衛	1788～1793	榎立のイブリヤ池を作る指導をした。
伊辺定左衛門 辻彦之丞	1792～1826	島で初めて商売をする。
近藤富蔵	1827～1880	『八丈実記』をのこす。今までの八丈のことを調べたり、三根に川平夕学館をつくる。
(石工) 仙次郎	1834～1856	石を切って石碑をつくり、文字を刻むことを教える。
石山留五郎	1844～不明	島一の大工。末吉の長戸路家再建の棟梁。
梅辻規清	1847～1861	学者。中之郷の子どもたちに、読み、書き、そろばんを教える。
丹宗庄右衛門	1853～1868	サツマイモから「しょうちゅう」をつくることを教える。
八郎（八老）	1860～1862	末吉にカイコの養い方を教え広まった。
平川親義	1869～1873	長戸路敦行と島で初めての学校、末吉夕学餐（せきがっこう）をつくる。

飢饉とさつまいも 八丈島は台風

などによる大風・潮の吹き上げが多く、虫やネズミの被害もあり、はやい病のため作づけができないなど、よく飢饉におそわれました。はなれ島であることや流人が多かったことも、その被害を大きくしていました。流人の抜け船や暴動も飢饉に関係があったといわれています。明治維新のときに、人口八千人に対して、三百五十人が罪を許されました。それほど、流人がたくさんいたのです。しかも、八丈島では結婚して子どもがいる流人もいました。

飢饉については、中之郷の「冥福碑」、民話の「こんきゆう坂」、「どこ

江戸時代の飢饉・疫病・災害の記録 (死者のあったもの)

年	H10年から○年前	原因	様子	死んだ人の数
1604 (慶長9)	394	◇つなみ (八戸)	田畑半分だめ	75人
1636 (寛永13)	362	●はやりやまい		多数
1637 (寛永14)	361	●はやりやまい		多数
1641 (寛永18)	357	●小島 ほうそう		53人
1646 (正保3)	352	●はやりやまい・大しけ (末吉)		180人以上 (八丈島・小島)
1677 (延宝5)	320	◇つなみ (八戸)		1人
1682 (天和2)	316	●はやりやまい		30~40人
1688 (元禄元)	310	●はやりやまい		100人以上
1700 (元禄13)	298	八丈島・小島で大風雨	麦だめ	飢え死にした者多数
1701 (元禄14)	297	大風	諸作だめ	冬~夏700人以上 (中之郷・小島が多い)
1703 (元禄16)	295	◇大つなみ (末吉以外の地区)		中之郷3人流される。
1709~11 (宝永6~8)	289~			中之郷で3年間に664人
1711・1712 (正徳元・2)	287~		秋作だめ	2年で990人
1713 (正徳3)	285	大風・日でり		(末吉380人以上)
1749 (寛延2)	249	大しけ	諸作だめ	2年で100人以上
1767~69 (明和4~6)	231~		諸作だめ	八丈島全体で1500人以上 (中之郷733人)
1776 (安永5)	222	●ましん		患者 (かんじゃ) すべて死ぬ。
1787 (天明7)	211	●ほうそう		樫立300人。中之郷10数人。
1788 (天明8)	210	●えきり (10月~翌年6月)		三根・末吉で170人以上
1795 (寛政7)	203	●ほうそう		三根500人、大賀郷450人
1821 (文政4)	177	●ほうそう (大賀郷)		40~50人 (大賀郷)
1832 (天保3)	166	日でり		300人以上 (大賀郷)
1834 (天保5)	164	(八丈島・小島)		800人以上

◇つなみ ●病気 無印：台風・ひでりなど

ら、「人捨てヤア」などが残っています。

八丈島では、さつまいもが広まるまでは毎年のように飢饉にあつていました。幕府も、食べ物を与えたり、お金を貸したり、困い倉（非常の時にそなえてこく物をたくわえる倉庫）を作ら

冥福の碑Ⅱ中之郷・大御堂にある碑の内容

明和三年（1766）から明和六年（1769）までの四年間、作物がひどくとれなかった。飢え死にした人は中之郷村で七百三十人、生き残った人は四百人ほどであった。子孫である我々は、それを思うと悲しくてしかたがない。そこで、みんなで相談して、このことを石に彫って、死んだ人の幸せを祈り、このことを後の世に伝えるものである。

明治二十三年（1890）十月



冥福の碑

せたり、出百姓をさせるなどの対策をとりましたが、飢饉はなかなかなくなりませんでした。

※出百姓は、よその土地に出て行って農業などをする事

天保七年（1836）、流人の近藤富蔵の飢饉体験

妻は、五歳の女の子と二歳の男の子と、そして、自分三人が飢え死にしないようにと、山に登ったり、野原に行ったり、浜を歩いたりして、食べ物を探したが、ほかの人も同じように探しているのでも見つからなかった。

やつと、二里（8km）ほど離れた山に登ってマダミという木の実を二、三合（コップ4、5はい位）ひろって家に持ち帰り、つぶして粉にして餅を作り、自分も食べ、むすめにも食べさせた。乳におできができていて、乳が出なかつたので、二歳の子にも、ひどくえがらっぽいこの餅を食べさせようとした。この子は、見ることは見たが、なみだをいっぱいにして、口の中に入れようとはしなかつた。でも、おなかが空いてがまんできなかつたので、どうしようもなく、後では食べた。苦しい様子の子より、そばで見ている母の悲しさは、何にもたとえることができない。

このような毎日が続いたので、食べ物が見つかりそうな山もなく体が疲れて、とうとう寝こんでしまった。女の子はどうしようもなく枕元で泣き、懐にいます子どもは乳が出ないので泣き叫んでいる。母の心は生きた気持ちもしいが、どうしようもない。生きていくけれども、食べ物がないという苦しみを味わって、ただ、死を待っている。ある夜、私が、たった二寸（6cm）より短いトコロ（つる草の根。苦い）を二つ持って帰った。妻に渡して、その晩は、二人でずっと泣き続けていた。（以下略）

飢饉への対策

- ①牛食いに山に入る。
- ②年貢を少なくしてもらう。
- ③お金を借りて食べ物を買う。
- ④食べ物（米・麦など）をもらう。
- ⑤サツマイモを作ることをすすめる（1725年～）。
- ⑥稲荷神社を建てる（1769年）。
- ⑦奉公に島を出ることを認める（1770年）。
- ⑧出百姓をする（1772年～）。
- ⑨流人の結婚を禁止する（1774年）。
- ⑩「囲い倉」を作り、作物を貯蔵する（1791年～）。
- ⑪家の敷を決めて増やさない（1799年）。
- ⑫作方世話人（つくりかたせわにん）を決め、世話をさせる。
- ⑬漂流船の積荷の米などを食べる。
- ⑭サツマイモしょうちゅうを作ることを禁止する。

飢饉の時の食べ物

アザミ、イグマ（リュウビンタイの根）、
 まだみ（タブノキ）の実、葛（くず）の根、
 トコロ（とこら）、竹みそ、
 へんご（天南星、まへんご、ささばへんご）、
 サルトリイバラ（山帰来-サンキライ）

サツマイモ栽培の歴史

1727（享保12）年	幕府が「白さつま」の苗を送ってきたが、作り方がわからず、たくさんはできなかった。
1770年（明和）頃	サツマイモは食べられるようになったが、たくさんはとれなかった。
1811（文化8）年	新島から「赤さつま」の種をもらった。
1812（文化9）年	国地から「ハンス」の種をもらってきたが、土地に合わなかった。
1835年（天保）頃	作り方が工夫され、種が島に合うようになって、たくさんできるようになった。



サツマイモ伝来の碑（大賀郷馬路）

このころのふつうの人たちの食事は、夏は麦、冬場は里芋を中心さといもに、アワやアシタバなどを入れたぞうすいなどを食べていました。サツマイモが広まると、サツマイモが中心になったといわれています（夏は『切干きんぼし』を食べました）。

飢饉のときは、へんご・アザミ・サルトリイバラの根ね・リュウビンタイの根なども食べていました。

流人るにんの近藤富蔵こんどうとみぞうが、飢饉のときに、末吉すえよしの長戸路家ながとろにたのんで、アザミの根をほらせてもらい、うれし泣きなして帰ったという話が残のこっています。こうした八丈島でしたが、サツマイモが広まると、飢饉は少なくなつたといわれています。サツマイモは、八丈島の人びとの命いのちを救すくった食べ物でした。

ねんぐ
年貢としての黄八丈きはちじょう 八丈島で作

きぬおりもの
られていた絹織物は、色はおもにも黄・か
ば・黒の三色で、特に染める技術ぎじゆつがすぐ
れており、八丈絹きぬとか丹後たんごとかいわ
れていました。それが、明治時代ころか
ら黄八丈といわれるようになりました。
八丈島では年貢として、米ではなく
この丹後を納めていました。

えどじだい
江戸時代には、検地けんちといって田や畑はたけ
の広さをはかり、納める絹織物の割わり
当てを決めていました。納める反物たんものの
数も多く、將軍しやうぐんやおおおくおおくの女性じよせいが使うた
め役人の検査けんさもきびしかつたので、す
ぐれた織物ができるとなりました。
また、年貢以外いがいにも、江戸で売られ、
重要な産業さんぎやうになっていました。



黄八丈の織り物

二百両ほどのお金を持参じさんし、田畑を
買った」とあり、機織はたおりのできる女
の人は大切にたいせつにされていきました。

くわ
桑の葉はとりなどをしました。女の
人は力仕事はせず、機織り中心の生
活あでした。手が荒あれていると、機織
りで糸をあつかうときこまるため、
外での仕事をしないようにしていた
のです。

ある家
の記録きろくで
は、「嫁よめに
来るとき、
丹後を織お
って得えた

海上交通と小笠原開拓 島外との

交通は、船にたよるだけでした。今と違い、帆掛け船でしたから、風まかせなので、よく遭難もしました。

幕府は、七百石の船を二隻つくり（後に一隻を二百五十石船二隻、合計三隻にした）、それぞれ、春と秋に八丈と江戸を往復させていました。

また、廻船といわれる個人の船もありましたが、記録があまり残っていないのでよくわかっていません。

幕末になると、外国の船が開国を求めてやってきました。幕府は、海防警備のため、島の人に武器を渡したり、石積を築かせたりしました。また、領土が確定していなかった小

笠原の調査

に咸臨丸が行き、中郷の菊池作次郎がおともをさせられていきます。

その後、小笠原開拓に男女十五組が送られましたが、これは成功しませんでした。

おふねあず れきし 御船預かりの歴史

御船預かりの歴史		年 代	私 船 (廻 船)
大船方 (700石船)	小船方 (700石船、1830年から350石船2隻)		
笹本氏 (23年以上)	佐藤氏 (41年)	1619 (元和5)	個人の船を持つことを願い出る。
鈴木氏 (35年)		1623 (元和9)	
	玉置氏 (96年)	1644 (正保元)	
山下氏① (147年)		1657 (明暦3)	7隻
	服部氏 (130年)	1700 (元禄13)	
		1739 (元文4)	4隻 (菊池氏2、高橋氏2)
		1790 (寛政頃)	
山下氏② (63年)		1803 (享保3)	大吉丸 (300石)、七面丸 (700石)
	山下氏① (9年)	1830 (天保元)	
	笹本氏 (7年)	1838 (天保9)	
	高松氏 (7年)	1850 (嘉永頃)	
		1854 (安政元)	
	笹本氏 (9年)	1860 (万延元)	
長戸路氏 (4年)		1865 (慶応元)	

山下①と山下②は別の家。山下②は浅沼 (末吉の長戸路) 家から出た家。

(四) 戦争前までの八丈島

小学校ができたころ 徳川幕府が

ほろび、明治五年には、だれでも学

校に入れるきまりができました。

八丈島でも、いちはやく、末吉小

学校がつくられたのを初め、どの村

にも、まもなく公立の小学校ができ

ました。八丈島の人たちが教育に熱

心だったことがわかります。

⑤7

店ができて 八丈島で初めての店

が、一八八二年（明治十五年）ごろ

にできましたが、そのころは、まだ、

物と物との交換をしていました。

やがて、一八九〇年（明治二十三

年）ごろから、お金で売り買いする

ようになりました。そこで、島の人

たちは、春はカイコをやしなひ、夏

はテングサをとり、秋から冬には炭

をやくなどしてお金をかせぎました。

大正時代から昭和時代にかけて、

木炭や乳製品の生産がともさかん

になり、東京をはじめ、本土各地に

売られるほどでした。

大坂トンネル 一九〇七年にトン

ネルが完成して坂上と坂下の行き来

明治時代、島の各小学校ができるまで

西暦	明治	できた学校名
1868	元年	
1871	4	夕学（末吉）
1872	5	だれでも学校に入れるきまりができる。末吉小学校
1874	7	青ヶ島小学校
1875	8	三根の小学校 なかの郷小学校
1877	10	立か賀小学校 お大郷小学校

は便利べんりになりましたが、今のよう
に自動車やバスはなく、荷車にぐるまで物ものを運はこ
び、人は歩いていました。

昭和しゅうわになって、水力発電すいりょくはつでんで電燈でんとうが
つき、定期バスていきも通とほるようになり、
電話でんわもひかれて、くらしは、少しず
つ便利べんりになっていきました。

移民いみん 小さい島に大ぜいの人ひとが住
んでいると、食べ物たべものなどにこまるこ
ともありました。そこで、江戸時代えど
には次男じなんや三男さんなんが、出百姓でびやくしやうといつて
ほかの土地ちへうつり住すむことがたび
たびありました。

明治めいしに入いってから、小笠原諸島おがさわらしやとう・
鳥島とりしま・大東島だいてうしま・南洋諸島なんやうしやとうなどへの移
民いんがおこなわれ、開かいたくの中心しんしんにな

りました。

そのころの生活しゆしやくのようす 島の人
の主食しゆしやくは、江戸時代とあまりかわら
ず、サツマイモ・サトイモ・麦むぎ・ア
シタバなどでした。

人ひとびとは炭すすをやいた後、やき畑はたに
して、マグサやサトイモなどを植うえ
ました。また、牛うしやニワトリ、ブタ
などの家かちくをかい、なぎの日は海
へ出て、魚いそや海藻かいそうをとるなどしてく
らしていました。

大正たいしやうから昭和しゅうわをへて、船ふねの便数びんすうが
ふえたり、人ひとびとの生活しゆしやくにゆとりが
出てくるようになると、今までどち
がつて、朝あさと夕ゆふにごはんを食たべられ
る家いへもふえてきました。

(五) 戦争中の八丈島

戦争中の学校 日本は中国（昭和六年〜二十年）やアメリカ・イギリス・オランダなど（昭和十六年〜二十年）と、長い戦争をしました。

八丈島でも大ぜいの人が、兵隊になったり、また軍ぞくとしてはたらく、五百人以上の人がなくなりました。



兵隊の見送り

そのころの学校の勉強は天皇のため、国のためにつくすこと

が大切だ、という考えが中心になっていたので

戦争が

はげしくなった昭和

十八年

ごろの学校では、武道・体練などといわれる、体をきたえる学習がふえてきました。

学校行事の中には、兵隊の見送り

と、戦争でなくなった人の出むかえ、勝利をいのるための神社のおまいり



さかんだった武道会

などがありました。また、はたらき手がたりなくなった農家の手つだいもするようになりました。

次の表は、そのころの三根みつね小学校の行事のようすです。

行事	回数		
	昭和十七	昭和十八	昭和十九
兵隊の見送り 戦死者の出むかえ、村葬 けいかいけいほう・防空くんれん 体練・武道 カラムシ・ツバナ（チガヤのは）集め （糸や綿の代用品となる植物を集めた） 鉄くず集め 害虫取り・草取り 軍の作業 大神宮・八幡のおまいり	4 4 12 10 2 2 0 10	2 7 4 29 5 1 2 2	0 0 0 0 2 0 20 14



じん地のあと（鉄壁山）

軍隊が入る 昭和十九年六月、サイパン島がアメリカ軍にせんりようされると、次は八丈島じょうりくに上陸するだろうと、いうことになりました。

日本の軍隊が一万六千人入ってきた、飛行場ひこうじょう（朝鮮ちようせんの人も働きました）・どうくつじん地などをつくりはじめました。



校舎がとりこわされて、校舎をバックにしてとれなかった卒業記念写真
(昭和19年度、榎立国民学校（高等科）卒業生。昭和22年3月根影)

そのため、学校や大きい家が軍隊ぐんたいの宿舎しゆくしゃや病院びやういんとして使われることになりました。そこで、学校の子どもたちは、お寺や大きい家をかりて、分かれて勉強べんきやうしました。

そのころになると、わかい男の先生は次つぎと兵隊へいたいに行き、また、けいかいけいほうも、たびたび出るようになり、勉強はだんだんできなくなりまりました。

そして、十九年の終わりごろは、勉強もほとんどしないで、ツワブキやアザミをとって、軍に出したり、上級生じやうきやうせいはおとなにまじって、石あげ作業さぎやう、木炭運びもくたんはこ、じん地づくりなどの軍の仕事を手つだいました。

島の人のそ開かい 戦争せんそうがますますはげしくなると、島の人は、軍の命令めいれいで、内地ないちの親せきしんせきや知人ちじんをたよって、島から出ました。このことをそ開かいといいました。八丈島では、およそ六

千五百人の人がぞ開しました。

特に、昭和二十年になると、八丈島にもばくだんが落おとされ、きじゅうしゃげきも受うけ、死しんだりけがをしたりする人がでるようになりました。そこで、千三百人ほどが長野県軽井沢いざわに、「集団しゅうだんぞ開」しました。その中には、小学生が二百三十人もいました。

しかし、食べ物が足りたず、だれもおなかをすかして、勉強べんきょうよりも作物さくもつをつくることを第一だいいちにしていきました。

悲しい東光丸の事けん

昭和二十年二月十五日、八丈島はお

そろしい空しゅうを受けました。そこで、のこっていた島の人たちにあらためて「ぞ開ぞかい」命令めいれいが出され、多くの子ども・女性じよせい・年としよりが、島を出ました。

四月十六日、島の人たちやしょう病びい兵へい・船員せんいんなどあわせて百六十人ほどを乗せたぞ開船「東光丸」は、昼の十二時すぎ神湊港かみなとを出ばんしました。これがさい後のぞ開船となるかも知れないというので、島の学校の大切たいせつな書しょるいを持った先生たちも乗りました。

ところが、御蔵島みくらの南三十キロメートル付近ふきんで、とつぜんアメリカ軍のせん水かんの魚らいこうげきを受け、船はずみ、百五十人ほどの命いのち（島の人五十五人）がうばわれました。

この悲しい事件のことを伝える「東光丸の碑ひ」が末吉の台だいヶ原がらにあります。

(六) 戦争後の八丈島

そのころの学校 戦争が終わって
そ開かいしていた人びとや戦争に行つて
いた人びと、小笠原おがさわらや南洋なんようの島じま
にいた人びとも帰かえつてきました。

18 ページのグラフを見てもわかる
ように、急に人口じんこうがふえ、学校の子
どもたちも多くなりました。

しかし、島では、食べるものも着る
ものも足りない苦くるしいくらしがしば
らくつづき、みんながこまりました。

学校は、校舎こうしゃがとりこわされてい
たり、まだ軍ぐんに使われていたりした
ので、しばらくの間は役場やくばや倉庫そうこな
どをかりて勉強べんきょうしました。

教科書きょうかしょは、進しんちゅう軍の命令めいれいで、

すみで黒
く消けされ
たところ
のあるも
のを使い
ました。

学用品がくようひんや紙も足りなくなり、とき
どきノートが配給はいきゅうされました。楽がっき器
は、オルガンがあるだけでした。

わらぞうりをはいて登校とうこうする子ど
もが多く、また、たいていはお弁当べんとう
をもつてこないで、お昼になると、
家に食べるに帰りました。

その後、新しく中学校ができまし
たが、しばらくは、校舎は小学校と
いっしょに使いました。



すみめりされた国語の教科書
（「兵タイゴッコ」のところ）



まえの富士中学校
(島で初めてのブロック建ちく)

やがて、人びとの努力で、しだいに島のくらしもよくなり、おちついてきました。どの学校も校舎がととのえられ、ピアノもそなえつけられました。昭和二十九年には、島で初めてのブロック建ちくの富士中学校がたてられました。

(七) 八丈町のたん生

八丈島は、それまで、三根村、大賀郷村、檜立村、中之郷村、末吉村、八丈小島の宇津木村、鳥打村に分かれていましたが、昭和三十年四月に一つの町にまとまり、八丈町がたん生しました。このことで、今まで、村ごとに別べつにやっていた、道路



八丈町役場 (昭和33年10月完成記念写真)

やバス、水道・消防・学校のことなどを、町全体として、進められるようになりました。

かわってきた生活 八丈町がたん

生じょうしてから、人々のくらしのようすが、年々大きくかわってきました。

道路も交通の便べんもよくなり、観光かんこう客きやくもふえ、民宿みんしゆくやホテルが、次つぎ

にできました。また、火力発電所かりよくはつでんしよもでき、昭和しやうわ三十二年からは二十四時

間電気でんきが使えるようになりました。やがて、電気こたつ・電気洗たく機き・

電気そうじ機・電気冷ぞう庫こなども使われたし、昭和三十六年には、三

根ね・大賀郷地区おおかごうちくではテレビも見られるようになりました。

人口じんこうが、一万二千人位だった頃ころ、島内とうないのお店の数は今より多くて、お

風呂屋ふろやさんもあったそうです。

最近さいきんでは、徐々じよじよに人口も減へっています。

き、今では八二〇〇人ほどになっています。その一方で、平成二十三年

には、六十五歳さい以上のお年寄よりの人口が、三二パーセントを越こえ、農業のうぎやうな

どの仕事では、後あとをついでくれる若い人わかがいなくて、こまっています。

お年寄よりの世話せわをするなど、福祉ふくしの問題もんだいもあります。

また、生活が便利べんりになるにつれて、交通事故じこやふえるごみのことなど、

いろいろとこまる問題も出てきました。

みんなの知恵ちえと力を集めて、問題を解決かいけつし、より住みよい八丈島をつ

くりあげなければなりません。

(八) むかしから伝わるもの

島には、むかしから伝わる大切な文化がたくさんあります。

節分せつぶんに行われるフンクサ 島では

むかしから伝わるフンクサをやって
いる家があります。節分の夕方に、
「鬼おには外そと、福ふくは内うち」
と言って豆まきを
をしますが、その前に家族かぞくでフンク
サという行事をします。みんなが集
まったところで、竹の棒ぼうにイワシの
頭など生ぐさ物をはさみ、火にあ
ぶっては、そのにおいをかいで、次
のようになえます。

フンクサフンクサ カマツテソーロー
鶴つるは千年かめ亀かめは万年 浦島太郎うらしまたろうは百八つ
このやのあるじは百八代
フンクサフンクサ カマツテソーロー

米せんがんの千貫せんがんのいきとカマツテソーロー
まゆが千貫 いきとカマツテソーロー
むろが千貫 上がったいきと
カマツテソーロー

(注) かまる……島ことばで「におう」の
意味です。

このフンクサのことばには、むか
しの人の願ねがいがわかります。ほかに
もむかしから伝わる地域の年中ねんじゅうぎよう行
事じがありますので調しらべてみましょう。

むかしから唄うたわれてきたシヨメ節ぶし

みなさんがよく聞きいたり、踊おどったり
するシヨメ節は、明治時代めいじじだいの中なかごろ
に生まれ、今にも伝わっている島を
代表する民謡みんやうです。歌詞は島の生活
だけでなく幅はば広くつくられています。
東京都とうきょうとの民俗文化財みんぞくぶんかざいです。次のシヨ
メ節は代表的な歌の歌詞です。

五 島の人びとのくらしと交通



横間きゅうどうの旧道（点線は旧道）

はばの広いほそうされた道路が、島内を一周しゅううしています。また、坂上さかうえと坂下さかしたをむすぶ横間道路よしまには、大坂おおさかトンネルがあり、坂上の人は坂下へ、坂下の人は坂上へと、いつでも行き来ができます。

そして、大型化おおがたかされた船や飛行機ひこうきが、毎日、東京とうきょうと八丈島やえじまを行き来しているので、わたしたちのくらしはたいへん便利べんりでゆたかです。

では、むかしからこのように便利な生活をしていたのでしょうか。

これから、むかしと今の八丈島の島内とうないや、本土との交通について、みんなで調べながら、学習していきましよう。

(一) 島内の交通

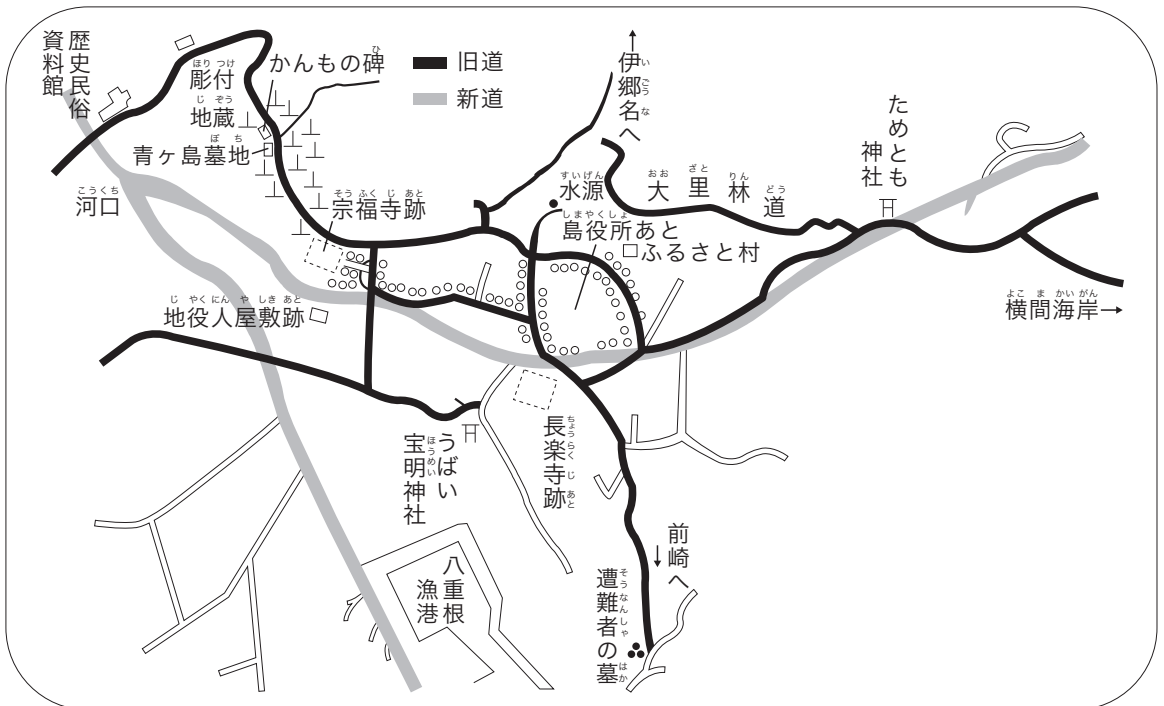
旧道をたどって 下の図は、大賀郷の歴史民俗資料館の横から為朝神社までの、新しい道と古い道の図です。

玉石がきにかこまれた家をかこんでいるまがりくねった道は旧道で、水げんや海、畑へとつづいていきます。

歴史民俗資料館の横から入って行くと、ほりつけ地ぞうや、古いはか石があります。大木におおわれ、落ち葉をふんで歩く、このあたりは、馬路といわれています。

馬路につづく大里は、むかしから島の中心地でした。宗福寺やじん屋のあと、玉石がきなどが残っています。

大賀郷、大里の旧道と新道のりやく図



為朝神社近くの、都道とどうぞいの畑には、まがりくねった旧道のあとが残っていて、むかしのようすを知ることができません。

また、坂道も多く、人びとはしよいに荷物にもつをつけて、この急な坂道を歩いて運びはこびました。女の人には、しよいかごをせおったり、頭の上に荷物をのせて運んだりしていました。大きな荷物は牛のせにのせて運びました。

むかしの人びとは、自分たちの地ち区くで生活することが多く、あまりよその地区へ行ったりすることがなかったようです。



しよいかごをせおう



頭の上のせて運ぶ

大坂トンネルと道路 おおさか 坂上と坂下 さかうえ さかした

をむすぶ大坂トンネルは、島の交通にとつて、とても大切な所です。

では、大坂トンネルができる前の坂上と坂下の行き来は、どうしていたのでしょうか。

榎立側には大坂とうげ、末吉側には登龍とうげの急な坂があります。これらの坂には細い道がつけられていましたが、登りくだりが急なので島の人びとは一日がかりで行き来をしていました。

『八丈島誌』に、次のような榎立の八助おじいさんの話のつています。

大坂とうげの道は、とてもけわしく、

こまったな。坂のの中には、とがった石もあり、登るのはどうにかなったけど、坂下へくだるのがこわかったよ。しよいこに荷物をつけてくだるとき、しよいこが石のはしにあたろうものなら、ぶっこちそうになって、おっかなかったぞ。

榎立・中之郷の人たちも、わざわざ末吉まわりで、坂下にくだったものだよ。

そこで、大坂とうげにトンネルをつくるという計画が考えられ、一九〇五年（明治三十八年）、島司（今の支庁長）であった阿坂という人や各村長が中心になり、日露戦争に勝った記念としてつくることになりました。

道はそれまでの横間よこまが原の小道を
広げるのではなく、新しく大里おおざとから
大坂とうげまでの広い道をつくり、
長さ百七十メートルのトンネルをほ
る、というものでした。

そのころ、島ではそんなことがで
きるわけない、と考えていた人が多
かったのですが、阿坂島司は計画を
かえませんでした。

その工事には、島の人たちは夫役おえぎ
(わりあたえられて、ただではたら
くこと)で参加さんかし、夜も道づくりや
トンネルほりに協力きょうりょくしました。しか
し、地しつが弱く、何回もくずれて、
何人かの人がぎせいになりました。

トンネルは、檜立側おほかづらと、大賀郷側おほかごう

からほられ、二年間かかって、一九
〇七年について完成かんせいしました。
このトンネルによって、坂上と坂
下の行き来が、とても便利べんりになりま
した。

しかし、そのトンネルは、今のと
はちがい、せまくて、荷馬車にが一台
通れるほどのものでした。また、電
燈とうもなかったので、まっくらでした。



今の大阪トンネル



八丈島^{うん}で運ばんに使われた牛車（昭和28年ごろ）

かわつてきた交通

大正時代^{たいしやう}に

なると、76ページの図のように、旧^{きゆう}道^{どう}と別に広い新しい道（新道^{しんどう}）がつかられました。

しかし、大坂^{おおさか}トンネルができたり、

新道^{しんどう}がつくられても、物を運ぶ^{はこ}のは人や牛の力で

した。ところ

が、一九一〇

年に大八車^{だいはちぐるま}が

島に入り、そ

の後は馬力^{ばりき}と

いわれた牛車

が使われまし

た。

一九二五年

になると、初め^{はじ}

て貨物自動車^{かもつ}が

牛乳^{ぎゅうにゅう}や船の荷^に

物^{もつ}、炭^{すみ}などを運

ぶようになり、

昭和四年^{しやうわ}からは、

「乗合自動車^{のりあい}」

も走り始めまし

た。

トラックも乗

合自動車も初め

は坂下^{さかした}だけを走

っていました

が、その後は中^{なか}之

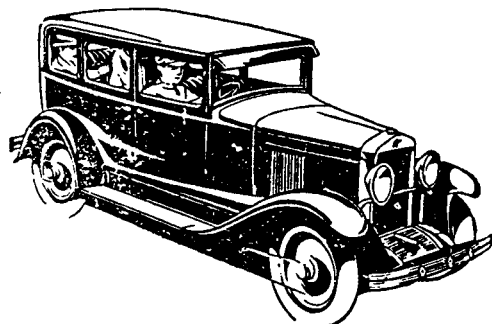
郷^{ごう}・末吉^{すえよし}にまで

行くようになり

!!を命用御へ輸運日朝 非是

……番十（島丈八）話電……

乗用車^{乗用車}の御用は……



菊池寛六
奥山秀雄

乗用車営業開始

キツト御氣に召す

乗心地百パーセント

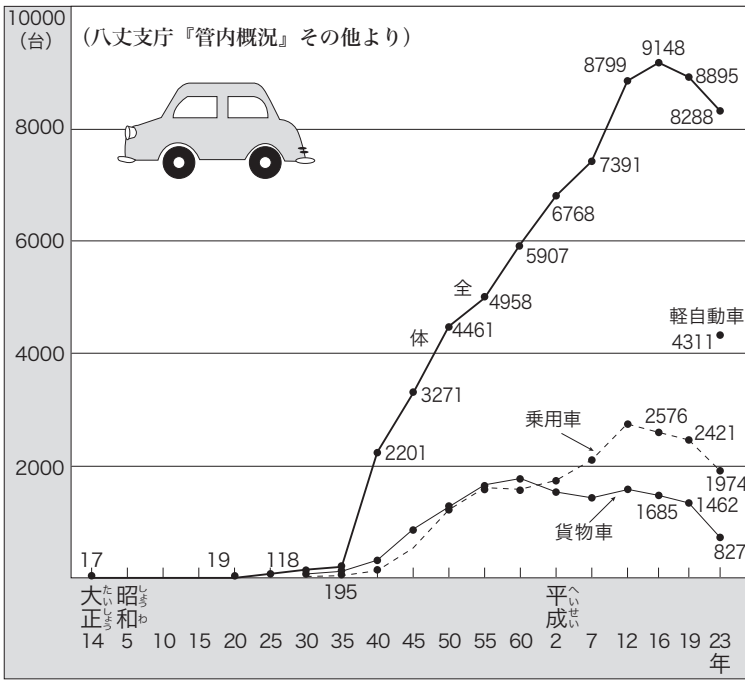
迅速・親切をモットーとする

当店へ是非!

朝日運輸

電話八丈島十番

自動車のふえかた (バイクをふくむ)



ました。
 しかし、ふつうはとなりの地区ちくに
 行くことも少なく、行くときがあつ
 ても、自動車に乗らずに歩いて行く
 のがほとんどでした。
 戦争せんそうが始まると、ガソリンや車の

部品ぶひんもなくなくなってしまい、自動車の
 仕事しごともできなくなっていきました。
 戦争が終わって、ふたたび自動車
 が使つかわれるようになり、昭和二十三
 年からは、島で「運うんてん転めんきよしけ
 ん」も始まりました。
 その後、昭和三十年ごろから道は
 ばを広げる工事が始まり、八丈一周しゅう
 道路づくりや道路のほそも進めら
 れ、大坂トンネルも今のようにつく
 りなおされました。
 このような中で、自動車は昭和三
 十五年ごろから台数がどんどんふえ、
 今ではほとんどの家で乗用車じようようしゃを持
 つようになり、近い所でも車で行く
 ことが多くなりました。

(二) 島と本土との交通

毎日来るようになった船 わたし

たちの島は、長い間、よその土地との行き来を船にたよってきました。島のくらしにひつような物は、今でもほとんどが船で運ばれてきます。海の交通は、人びとのくらしに大きくなつなかりをもっているのです。

江戸時代は、幕府の船は年に二回来るだけでした。明治時代になつても、小笠原へ行き来する船が年に四回ほどよるだけでした。明治の終わりになつて、やっと毎月一回来るようになり、しだいに船便がふえ、昭和十年ころになると、定期船は毎月六回行き来し、小笠原航路の船も年

昭和22年より



黒潮丸 (496トン、全長50m)

月六回、十八時間ぐらいで来るようになりました。

しかし、そのころは、まだ大きな橋がなかったので、本船はおきにとまって、はしけとよばれる小さな船で、人や荷物を何回にも分けて、港や本船まで運びました。



はしけ

に行きは二十
六回、帰り十
六回もよりま
した。
やがて太平洋
戦争が終わり、
黒潮丸が

平成14年より



さるびあ丸
(4965トン、全長121m)



かめりあ丸
(3837トン、全長103m)

おじやんの話

はしけで三十分ほどゆられて本船にのりかえたが、のりかえる前によってしまっていたいへんだった。黒潮丸は小さいので、ゆれがはげしく、ベルトをはずしてつり皮のようにして体をささえることもあった。牛もいっしょに甲板かんばんにつないで運ぶこともあり、し尿にまうはたれ流ながされていたのでくさくさこまった。そのうえ、天てんこうがわるいと二十時間ほどかかり、ほとんどの人がよってしまい、たいへん苦ろうの多い船たびだったなあ。

昭和53年より



すどれちあ丸
(3700トン、全長111m)

昭和46年より



ふりいじあ丸
(2361トン、全長84m)

できるさん橋がつくられました。⑬
こうして今では、船は大型おおがたになり、

船が横づけ
千トン級の
底土港そどこうに二
和四十年に
やがて昭

た。な願いでし
は、島の人
たちの大き
ということ
港みなとがほしい
づけできる
速はやい船が横
大きくて



コンテナをつみおろす貨物船

の おかげで
荷 づくりや
船 の つみお
ろ し が ら く
に な り、荷
い た み も 少
な く な っ て、
たいへん 便

スピードもまし、十時間ほどで来るようになりました。また、回数もふえて、今では毎日のように来ています。
客船きやくせんだけでなく、貨物船かもつせんも週に二回来ます。多くの荷物にもつはコンテナに入れて運びます。⑥

コンテナ



港についたコンテナ

は横づけできなくなりました。そこで、反対側はんたいがわの八重根港やえねこうにも大きなさん橋をつくる工事がおこなわれ、昭和六十一年しやうわに、船がつけるようになりしました。このさん橋は、一年間におよそ五〇回ほど利用りようされています。⑭

利りになりました。しかし、強い北東ほくとうの風がふくと、底そこ土港どこうはあれて、船

本土との交通のうつりかわり

● 海の交通 (太平洋戦争後)

- 昭和22年 東海汽船の貸客船「黒潮丸」が毎月6回来るようになる。
東京・八丈間の所要時間18時間。
- 31年 黒潮丸、毎月7回来るようになる。
- 40年 底土接岸港ができあがり、2000トン級の船が横づけできるようになる。
- 43年 貨物船「弥栄丸」が週3回来るようになる。
- 46年 大型客船「ふりいじあ丸」が毎週5回、三宅島によって来るようになる。
- 53年 「すとれちあ丸」が就航する。
- 61年 八重根が接岸港になる。
- 平成3年 東海汽船の本船が御蔵島に週1回寄港する。
- 14年 「かめりあ丸」と「さるびあ丸」の就航。(1日1便)
- 24年 東海汽船の八重根港待合所、完成する。

● 空の交通

- 昭和19年 現在の飛行場のもとになった海軍の飛行場が作られた。
- 29年 7人乗りのビーチクラフト機で東京と八丈との空の交通が始まる。
- 30年 双発ダブ機になり、毎週2回来るようになる。
- 31年 双発ダブ機が毎週4回来るようになる。
- 34年 15人乗りの4発ヘロン機が来るようになり、初めてスチュワーデスが乗るようになる。
- 35年 30人乗りのDC型ダグラス機が毎週2回来るようになる。
ヘロン機が名古屋とも行き来するようになる。
- 38年 40人乗りのフレンドシップ機が来るようになり、毎日5便となる。
(東京ーフレンドシップ2便、ヘロン2便、名古屋ーヘロン1便)
ヘロン機が八丈富士につらくし、乗員・乗客19人がなくなる。
- 44年 64人乗りのYS11型機が来るようになる(YS3便、フレンドシップ4便)。
- 57年 八丈空港の滑走路が1800mに広げられ、いろいろな設備がととのえられて、126人乗りのジェット機(B737-500)が来るようになる。
- 60年 名古屋便が休航となる。
- 平成元年 全便、エアーニッポンになる。ヘリ・コミューターの実験運航はじまる。
5年 ジェット機の便数がふえる。ヘリ・コミューター(愛ランドシャトル)正式にはじまる。
8年 ヘリ・コミューター(愛ランドシャトル)が毎日就航するようになる。
12年 YS便がなくなり、(B737-400)が1日4便運航される。
16年 八丈空港の滑走路が2000mに広げられた。
17年 エアバスA320就航、大島経由便運航開始。
21年 全日空大島経由便廃止。

便利な空の交通

長い間、本土との交通は船だけだったので、急ぎの用や急病のときなどには、とてもこまることがありました。

昭和二十九年、戦争中につくられた飛行場をもとにして、七人乗りの小さな飛行機が来るようになり、空の交通が始まりました。このため、八丈島から一時間ぐらいで東京へ行くようになりましたが大変料金の高い乗り物でした。③

やがて、利用する人がふえるにつれ、飛行機は大型機になり、便数もしだいにふえました。④

その後も空の便は便利になっていき、新聞も飛行機で運ぶので、その

日のうちに届くようになりました。しかし、悪天候による欠航、満席で乗れない時期がある、などの問題がおきていました。

そこで、空港が広げられ、いろいろなせつびがととのえられて、昭和五十七年から、ジェット機が飛ぶようになった。

そのために、近くの家約百けんと富士中学校や保育園が移転し、三根小学校の校舎の位置もかわりました。

旅客運賃（飛行機）のうつりかわり（単位：円）

年度	機種	運賃	そのころの初任給
昭和30年	ビーチクラフト	4,400	4,900
40年	フレンドシップ	4,600	14,400
50年	YS11	7,600	64,200
60年	B737-500	11,610	95,500
平成8年	B737-500	12,650	139,300
10年	B737-500	14,050	140,700
12年	B737-400	16,500	141,900
17年	A-320	16,700	140,100



ボーイングB737-400型機 (170人乗り)



A-320機 (166人乗り)



シコルスキー機 (9人乗り)



YS11機 (64人乗り)

平成元年から実験運輸じっけんうんこうをした後、平成五年八月から、伊豆諸島しよとうの島々がヘリコプターでむすばれるようになりしました。特に、青ヶ島や御蔵島みくらじまの人々には、この愛あいらんどシヤトルと呼ばれるヘリコプターは、大切な交通機関きかんとなっています。④

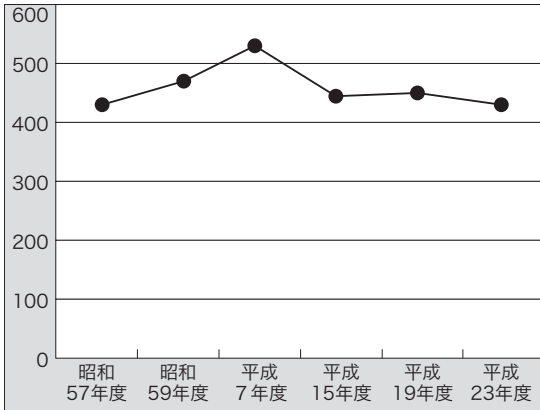
平成十二年からは、東京と八丈島をむすぶ飛行機ひこうきもYS11型がたのプロペラ機が休航きゆうこうになり、一七〇人乗りのジェット機きが運輸うんこうされるようになりました。このような飛行機ひこうきの大型化おおがたかや安定あんていした運行うんこうのために、平成十六年九月には、滑走かつそう路も二〇〇〇メートルになりました。現在は、A-132も運輸うんこうされています。

一人当たりの水道使用料の変化

八丈町水道使用決算資料による

年 度	人口(人)	有取水量(トン)	一人当たりの年間使用量(トン)	一人当たりの一日使用量(ℓ)
昭和57年度	10,126	1,589,530	157	430
昭和59年度	10,024	1,721,213	171	470
平成7年度	9,476	1,830,848	193	530
平成15年度	8,930	1,469,248	164	444
平成19年度	8,550	1,408,895	165	450
平成23年度	8,154	1,296,121	159	430

一人当たりの一日使用量(ℓ)



江戸時代の水くみのようす
 (「八丈三宅新島神津島諸職業図」より)

六 住みよい八丈島に

上の写真は江戸時代にかかれた八丈島の水くみのようすです。

このおけ一ぱいの水(十八リットル)を、一けん六人家ぞくが料理や飲み水として大切に使っていました。もちろん、洗たくやふるには使えませんでした。一方、現代のわたしたちはむかしとは比べものにならないほど水を使っています。(一日に一人あたり、およそ五百リットル)

わたしたちのくらしは、水だけではなく、多くの場面で便利になってきています。わたしたちが住みよい島にするために、どのような努力や工夫がされてきているのでしょうか。調べてみましょう。

(一) くらしと水

水道ができるまで 左の写真は、

むかしの水くみ場あとのようすです。

「庭ニラ二井戸イドナク、近クノ谷ヤ小川ノ水ヲ朝夕、女ノ人ガ汲クミ来ルナリ」と、近藤富蔵こんどうとみざうが『八丈実記じっぎ』に書いたように、むかしは東山ながから流れ出るわき水や川の水を、飲のみ水、洗たく、牛やしないなどに使っていました。



むかしの水くみ場あと（末吉）

水くみは、女の人の大切な仕事たいせつ しごとで

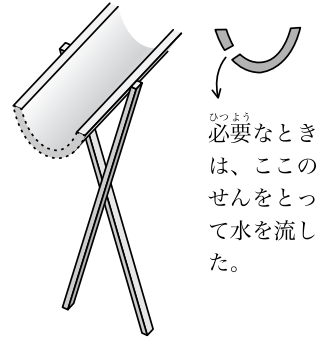
したが、水くみ場が遠かったり、水が少なかったりしたので、一番ばんどり

（朝の三時ごろ）で起きて、じゅんばんを待ちまました。

八丈島に初はじめて水道ができたのは、末吉すえよしで、一八五九年（安政六年あんせい）のことでした。そのときの地役人長戸じやくにんながと路収蔵ろしゅうざうは、工事の費用ひようをぜんぶ出して、この仕事を始はじめました。

木をくりぬいて作ったといで、二キロメートルはなれた水げんと村をつなぐ工事は、千六百六十人の人手と六年の月日なかのひをかけた大工事でした。つづいて中なか之郷のこう・檜立かしたてにも、いを使った水道ができました。

杉・しいをたてにわり、
くりぬいて作ったとい



谷をわたす
ときの木組
み。

坂下でも、だいぶおくれましたが、
村のあちこちに水そうを作り、川上
から土管で水をとるようにしたので、
水くみはとてもらくになりました。

今の水道は、昭和三十年ごろに
できて、消どくされた水がとどくよ
うになり、消火せんも取りつけられ
ました。また、土管も鉄管にかわり、
水もれもなくなりました。

その後、園芸・観光・家庭用に水
がたくさん使われるようになり、だ
ん水や時間給水がたびたびおきま



おおかわ しゅすい
大川の取水せき



八戸の井戸

した。町では水源をふやし、大賀郷
の八戸・大里や三根の片根山に井戸
を次つぎにほるなどしたので、水不
足はなくなりました。
また、昭和四十年ごろには、それ
まで雨水などをためて使っていた大
賀郷の西見・甚太や永郷、そして樫
立の伊郷名にも、水が送られるよう
になりました。

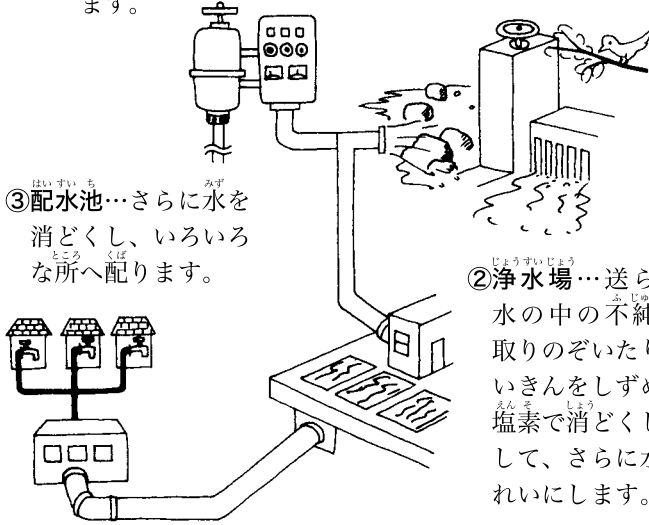
取水口から水道のじゃ口まで

①井戸…ポンプを使って地下水をくみあげます。

取水口…きれいな水をパイプに取りこみます。

③配水池…さらに水を消どくし、いろいろな所へ配ります。

②浄水場…送られた水の中の不純物を取りのぞいたり、ばいきんをしずめたり、塩素で消どくしたりして、さらに水をきれいにします。



水がとどくまで 今では、家庭や学校など、ほとんどの場所に水道があり、わたしたちは自由に飲んだり使ったりすることができます。

使った水やし尿のゆくえ 八丈島では、むかしはし尿（おしっこやうんち）を、畑のこやしに使っていました。使った水も地面にしみこませていましたが、洗剤やシャンプーが、地下水をよごすというおそれから、浄化そう式の家庭がふえています。

平成二十四年、おでいさいせいしより汚泥再生処理センターが完成しました。町では、自然を守る清けつな島を目指しています。



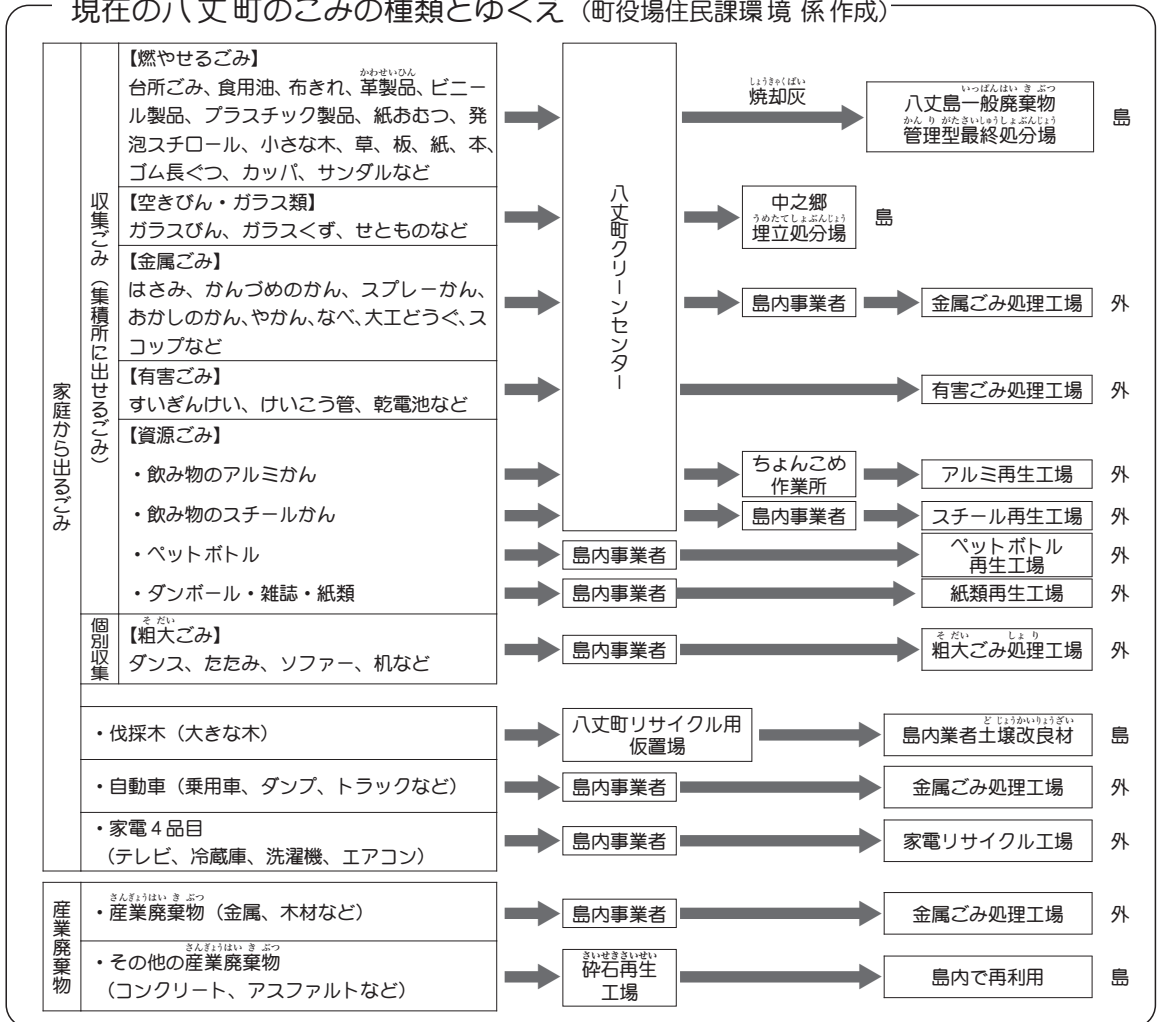
おでいさいせいしより汚泥再生処理センターでの作業

(二) くらしくらごみ

わたしたちは、毎日たくさんのごみを出していますが、このごみ処理は、町の大切な仕事の一つです。むかしのごみは、量も少なく、生ゴミなどが中心で、家ちくのえさにしたり、燃やしたりしていました。

最近のごみは、下のよに種類が多く、くさらないものや、燃やすとダイオキシンのような害のるものが多くなっています。

現在の八丈町のごみの種類とゆくえ (町役場住民課環境係作成)



ふえるごみ

ふえるごみについて町役場の住民課長さんからお話を聞きました。

燃えるごみは平成九年度にできたごみ焼却場（クリーンセンター）で燃やして処理しています。この焼却場は、ダイオキシンなどの有害物質の処理にも対応できるようになっています。木の枝や、葉、木材などは中之郷の埋め立て処分場で、残土や石などは登龍とうげの処分場でそれぞれ処理しています。金属ごみ（自動車、洗濯機、冷蔵庫など）は、東京へ運びリサイクルしています。

クリーンセンターでは年間四千トンのごみを十分の一分量の四百トンの灰にし、末吉地区の最終処分場に埋めています。



作業員の方のお話

燃えるゴミに乾電池が混ざっていたり、空き缶の中に、乾電池、ガラス、たばこが入っていたりすることがあります。毛布などは小さく切っていたりだかないと、クレーンからんでしまいます。ゴミ分別のルールを守ってくださいね。

また、空き缶は、つぶさずに出してくださいと、センターでプレスしやすいです。

以前、八丈島では、デポジット方式による空き缶やペットボトルのリサイクルに取り組んだこともありました。町ではクリーンアイランドを目標として資源の再利用や自分たちのゴミは自分で処理するような施設の整備に取り組みたいと考えています。



クリーンセンターでの作業

(三) くらしを守る

さいがいさいがいにそなえて 左の写しゃしん真しんは「防ぼうさい行政無線ぎょうせいむせん」の受信機じゅしんきです。この機き械かいは、台風や地しんなどのきん急放きゅうほう送そうに使つかわれます。また、ふだんのお知らせなどにも使つかわれていま

こちらは、防ぼうさい八丈やちやうです……。町役場やくばからお知しらせします……。



しんがたむせんき
新型無線機



防ぼうさい行政無線ぎょうせいむせんの鉄塔てつたう

命いのちやざいさんを守る 火か事じや事じ故こ、

病びよう氣きのひと人ひとたたちの救きゆう助じよにそなえていいるのが消しょう防ぼう本ほん部ぶです。

消しょう防ぼう本ほん部ぶは、一いち日にち中ちゆう中ちゆういつでも出しゅつ動どうできるよように、救きゆう急きゅう車しやや消しょう防ぼう車しやをじじゆんじゆんびして待たい機きしていまいます。

各かく地ち区くには消しょう防ぼう団だんがあります。

消しょう防ぼう団だんのひと人ひとたたちは、いいざといいうときには消しょう防ぼう本ほん



ぼうかすい
防火水そう



消しょう防ぼう本ほん部ぶと消しょう防ぼう車しやなど



八丈町防さいくんれん

みなさんのお父さんで、消防団に入っている人もいます。消防本部や消防団は、毎年「八丈町防さいくんれん」を町や支庁、けいさつと協力しておこなっています。

部と協力してはたります。各地区の

消防団の私たちは、いつもは自分の仕事をしています。

(四) ぐらしをささえる 住民総会

わたしたちは、もっと豊かで、楽しいぐらしをしたいという願いをもっています。

坂上三地区には「住民総会」といって、話し合いのための集まりがあります。

わたしたちの願いが、住民総会を通して、どのようになえられるかどうかです。

中之郷自治会長さんの話

中之郷では、住んでいる人たちから会費を集め、まちづくりをすすめています。この会費をもとに、裏見、滝の清掃、盆踊りや体育大会の実施、そして、敬老の集いなどを行っています。

花いっぱい作業ごよみ	
(しごと)	(月)
ハイビスカスの剪定	3月下旬
ペゴニア植え	4月上旬
くすりまき	4月下旬
スベリヒユ植え	5月下旬
マリーゴールド植え	10月上旬
パンジー植え	11月上旬

また、美しいまちにするために枝や雑草を切り取る里道づくりや道に季節の花を植える仕事もしています。催しにしても草刈りにしても多くの人たちの協力はかせません。

みんなから集めたお金でする仕事にも限りがあります。たとえば、曲がり角のカーブミラーの設置や暗いところの明かりの取り付けはできません。

そこで、各地区の振興委員が三か月に一回集まり、自分たちだけではでき

ないことを出しあい八丈町役場にお願ひしています。地区のことについて相談していただくために、年一回住民総会が開かれ、年間の予定や役員を決めています。

八丈町役場

町役場は、わたしたちのくらしをささえる大事な仕事をしています。町役場では、町民の

選挙でえらばれた町長を中心に、いろいろな課や係にわかれて仕事をしています。この章で学習した水道の

仕事、ごみのしよ理、さい害からくらしを守る仕事もそうです。このほ

かにも、わたしたちの戸籍を作る仕事、税金の仕事、町民の健康を守る

病院の仕事もあります。⑱⑳

教育委員会 町役場の中には、教育委員会があつて、主に学校に

関係する仕事をしています。わたしたちが勉強しやすいように校舎を建て

たり、学校で使う道具をそろえてく



三原小学校の工事

れたりします。
 また、こうみんかん公民館などで、おとな大人が勉強
 やスポーツをするためのせわをした
 りする仕事もしています。
 ⑭ ⑳ ㉔ ㉙



としよかん
 図書館



えいご
 英語教室



きゅうしょく
 給食センター



ほいくえん
 保育園



うけつけ
 町立病院の受付



ちやうえい
 町営バス

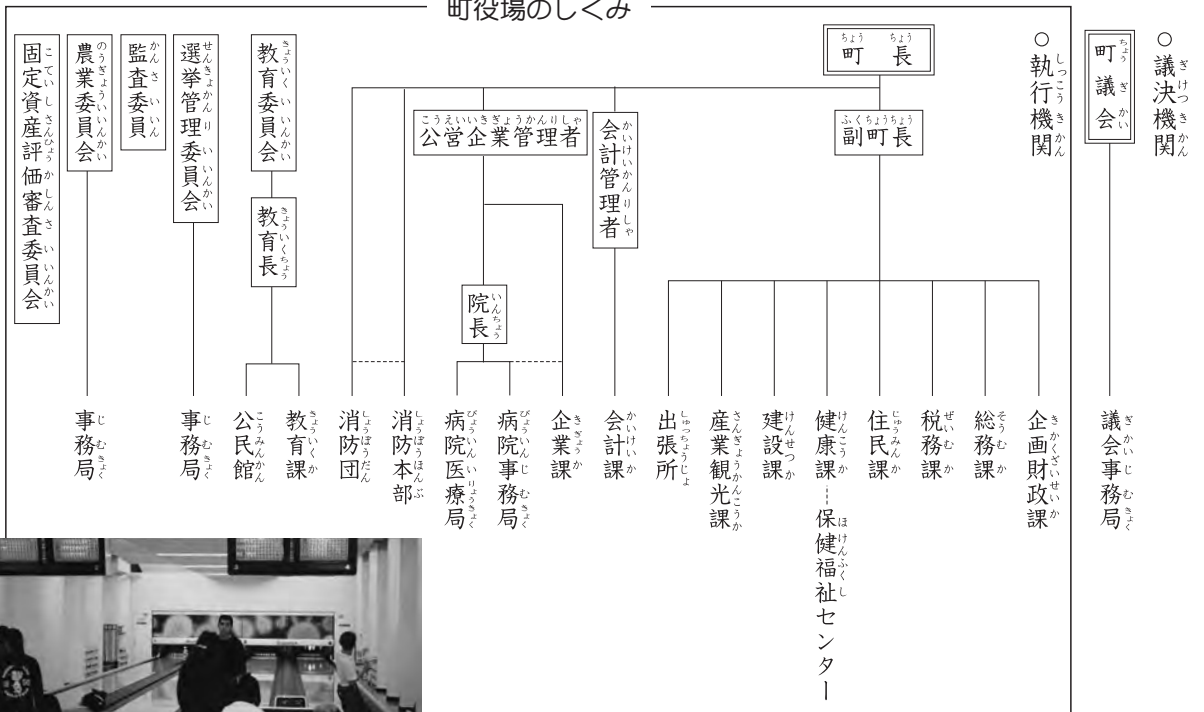


八丈町議会の様子

八丈町議会 町議会は、町民の選挙で選ばれた十四人の町議会議員によってすすめられています。この人たちが、わたしたちの願いや、これからの八丈島の発てんを考えた町の仕事のため
の予算や、町の大切なきまりなどについて話し合います。

特に大事な問題には、特別委員会を置いて取り組んでいます。

町役場のしくみ



コミュニティセンターのボウリング場③



ちてんひょう
地点標

八丈支庁しちょう 八丈島

は、東京都にふくま
れていきます。東京都
もわたしたちのくら

しをよくするため、いろんな仕事を
しています。それを中心になってす
めるのが八丈支庁です。⑩②⑥⑧⑩③⑩



八丈支庁しちょう⑩



都島しよ農林水産総合センター⑩



八丈ビジターセンター



都八丈島園芸技術センター



ほけんじよ
保健所⑩



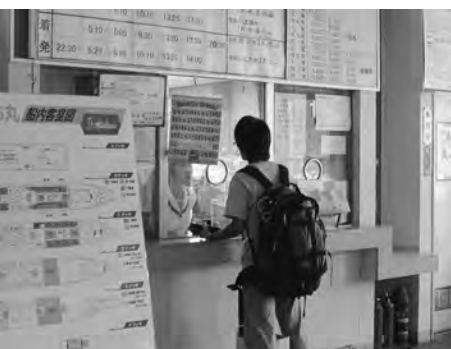
測候所のゾンデ打ち上げ②



みずみやまさいしゅうしょぶんじょう
水海山最終処分場での作業



くうこう
八丈島空港③



とうかいきせん
東海汽船



NTT・ME



でんりょく
東京電力

その他の官公庁の仕事
このほかに
も、学校や裁判所、灯台の仕事などがあります。



けいさつかん
警察官④



にほんゆうびんかぶしきがいしゃいん
日本郵便株式会社社員

その他の大切な仕事

(五) これからの島のくらし

これからの島の仕事 八丈島は、

あたたかい気候きこうと美しい自然しぜんと海の幸さちにめぐまれた島です。

島の人は、むかしからこの自然りよくを利用して、仕事をしてきました。これからの八丈島の仕事でも、この自然を利用した地元じもとの仕事をさかんにしていくことが大切です。

そのためには、次のようなことが考えられます。

一 八丈島にあった農業のうぎようのしかたをくふうして、花き園芸えんげいをもっとさかんにする。

二 漁業ぎよぎようでは漁港ぎよこうをもっととのえた

り、魚の住む魚ぎよしようをおいたりして、もっと魚のとれるくふうをする。

三 むかしから伝わる黄八丈きなどの仕事を大切に育てるそだ。

四 観光業かんこうぎようでは、観光客きゃくが八丈島に力を感りよくじるように取り組み、農業や漁業などの結びつきむすを深ふかめるように考える

島の仕事は、この四つの仕事かが関係けいし合あって、のびていくことが大切です。

そのため、東京都や八丈町と協力しながら、さらに研究を深め工夫を重ねたり、後つぎを育てたりすることが必要です。



八丈老人ホーム

ゆたかな生活をめざして 右の写真は、老人ホームの写真です。日本は、長生きできる国になりました。八丈島にもお年寄りがふえてきました。年をとると、体が弱くなりました。病気にかかりやすくなります。そういう人たちを守るためにつくられたのが老人ホームです。また、心や体にしよう害がある人のために活

動もおこなわれています。みなさんのまわりにも、お手つだいしている人がいます。②③④⑩

このように島に住む人たちすべてが、幸せにくらせるように、みんなで知えを出しあい、力を合わせてきているのです。

ところで、わたしたちの八丈島をもっとすみよい島にするためには、やることがたくさんあります。

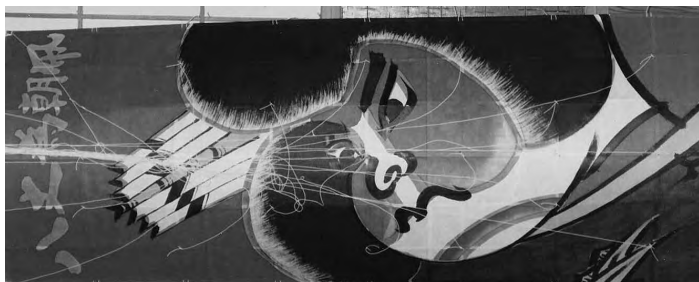
- 一 道路や港をよくしていく。
水道やごみ処理場をよくしたり、下水道をつくる。
- 二 台風や地しん、火事、ふん火などにそなえる。
- 三 健康なくらしができるように、病



だいこ
八丈太鼓



かしたて
樫立おどり



ためとも
為朝だこ



たかくら かや
高倉 (茅ぶきでねずみ返しがある)

気をふせいだり、ととのった病院にする。

四 お年寄りやしょう害のある人のくらしをよくしていく。

五 美しい自然をまもり、むかしから伝わるものを大切にする。

ゆたかなくらしができるような土地

の使いかたを考える。

これからの八丈島や日本、世界が、よくなるかどうか、ということとは、みなさんの今と、これからの勉強や努力にかかっています。

ふるさとを知る

八丈町教育長 佐藤 誠

私たちは、おいしい空気、新鮮な食べ物に恵まれ、素晴らしい自然と心温かな人々に囲まれて過ごしています。とつても幸せなことです。

このふるさと「八丈島」について、しっかりと学び、どんな島なのか、歴史はどうかだったのか、この先どのように変わっていくのか、くわしく知ってほしいと思います。

三・四年生の社会科では、八丈島の様子、人々の仕事、うつりかわり、人々のくらしと交通について学習します。

そして「住みよい八丈島」にするために今の生活についても、さらに学習を進め、これからの島のよりよいくらし方についても考えを深めていってほしいです。

最後に、編集にご協力いただいた委員の先生方、そして資料を提供していただいた関係機関の皆さまには厚く御礼申し上げます。

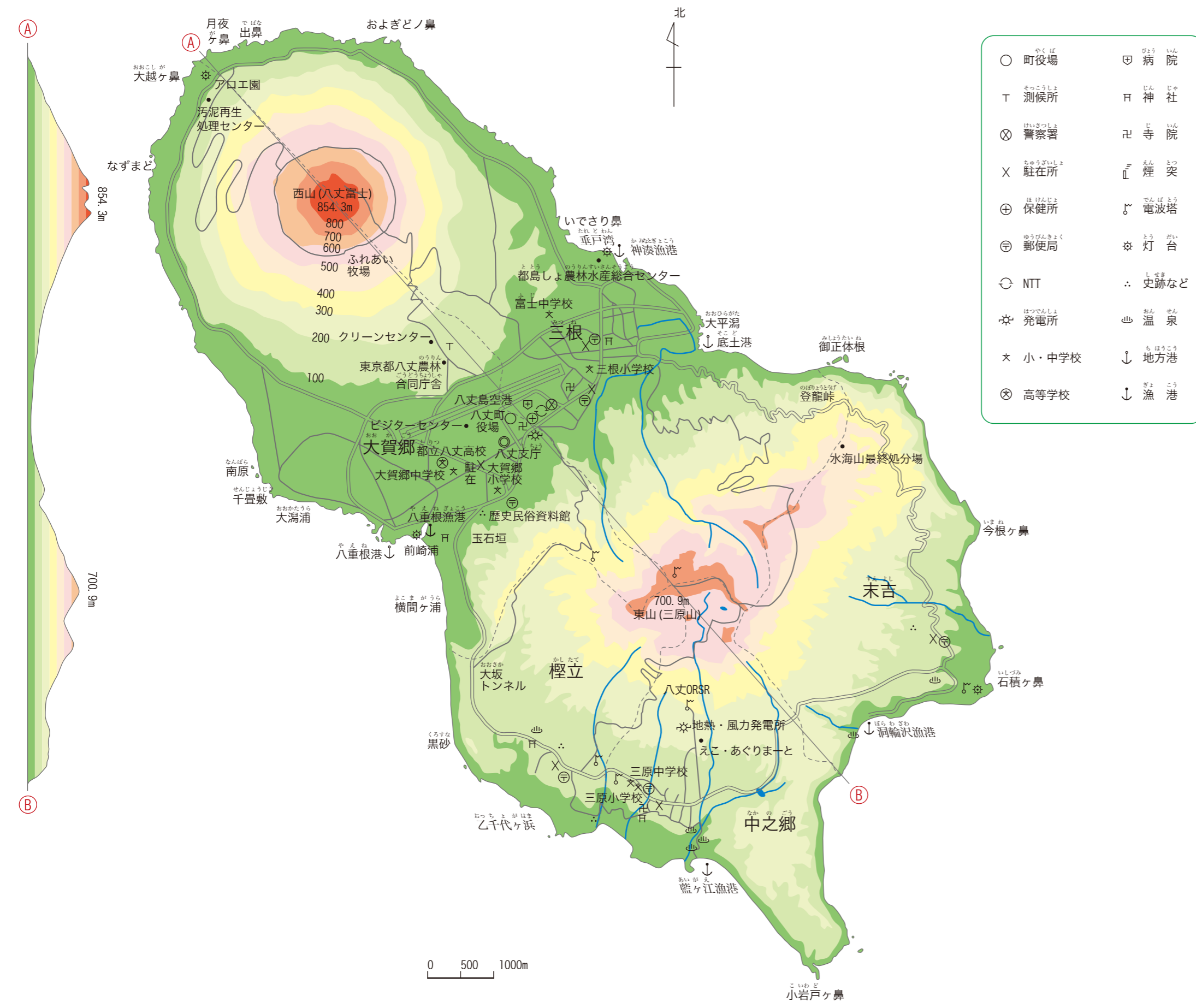
〔第九次作成最終委員〕

(委員長) 三原小学校 高遠 厚隆
(副委員長) 大賀郷小学校 芳賀 和彦
(委員) 教育委員会 林 薫

三根小学校 蓮沼 佐苗
大賀郷小学校 雁部 弥生
三原小学校 永井 功
末吉小学校 近藤 重善
大賀郷中学校 佐々木 究

〔第一〜九次(平成二十四年度までの)作成委員〕

鎗田 嘉夫	林 薫	茂手木 清	上野 脩
浅沼アイ子	長谷山和夫	菊池 文香	笹本 展壮
瀬谷 利夫	金城 雅子	安藤 駿英	菊池 淨
江守 広	鈴木智代子	石崎理恵子	金川 孝子
浮田ヨシミ	奥山 英虎	増田 満	豊泉 京子
高橋 喜久	黒田美智子	土田 昇	井出 隆安
花輪 信	宮城いづみ	松代 美紀	石井 和夫
浅沼敬多郎	岸波 勇	古川恵一郎	望月 義郎
木部 直美	池田 晋一	松田 隆	土田 芳実
浅沼 桂子	笹本 薫	森下 計二	濱口八重子
永吉 直文	丸山美智子	北川 雅一	石村 正太
三上満智子	小久保 進	會田 洋子	近藤 重善
下川 幸雄	半田 勝	雄城 泰子	山口 雄司
小林 省三	菊池 清子	秋田まり子	中丸 俊晴
岡墻 克純	梅田みどり	飯村 信夫	永井 直子
小笠原康夫	照井 由夏	中島 博美	角田 恒一
佐藤 誠	永井 勝巳	高橋 徳光	向井隆一郎
萩原 聖	向山 典宏	彌永 英俊	小澤 幸雄
柴崎 大輔	森川 直子	植村 覚太	栗原 伸



⑨④ 八丈町の魚「ハルトビ」

⑨③ 八丈町の鳥「アカコッコ」(天然記念物)

⑨① 八丈富士中腹より
 ⑨② 八丈町の木「フェニックス・ロベレニー」
 ⑨③ 八丈町の花「ストレリチア」

●資料提供者

ANA NTT 神奈川県立生命の星地球博物館 気象庁統計室 国土地理院調査資料課 (有)あしたば加工工場 東海汽船 東京電力 東京都公文書館 東京都港湾局 東京都島しょ農林水産総合センター 東京島しょ農業協同組合 東京都島しょ保健所八丈島出張所 東京都八丈島園芸技術センター 東京都八丈支庁 千葉県立中央博物館分館・海の博物館 南海タイムス 八丈島漁業協同組合 八丈島空港ターミナルビル 八丈島警察署 八丈町商工会 元・八丈島測候所 八丈島郵便株式会社 八丈ビジターセンター 八丈町クリーンセンター 八丈町中之郷自治会 八丈町役場 八丈島歴史民俗資料館 養和会八丈老人ホーム 汚泥再生処理センター 水海山最終処分場
藍澤正宏 赤坂太郎 赤坂幸仁 赤間憲夫 浅沼正男 浅沼 裕 浅沼光輝
岡野忠生 沖山勝利 沖山 等 奥山秀文 奥山和昭 奥山熊雄 小栗清光
川畑喜照 菊地庄一 菊池 寛 菊池 健 菊池正敏 菊池義郎 菊池順久
瀬能 宏 高橋洋介 高橋英介 津村 一 中村 昇 平床美樹 増渕元昭
村上正和 持丸 訓 山口浩平 山本珠々美 山本 裕 石井元和

わたしたちの八丈島

昭和59年4月1日 初版発行

平成25年4月1日 改訂9版発行

編集 東京都八丈島八丈町社会科副読本作成委員会 代表者 高遠厚隆
発行 東京都八丈町教育委員会 代表者 佐藤 誠 TEL 04996-2-0797 (代)
印刷 東京都東村山市秋津町2-22-9 コロニー東村山印刷所 TEL 042-394-1111



写真提供／東京都港湾局

東京都八丈町立

小学校

年 組 名前
